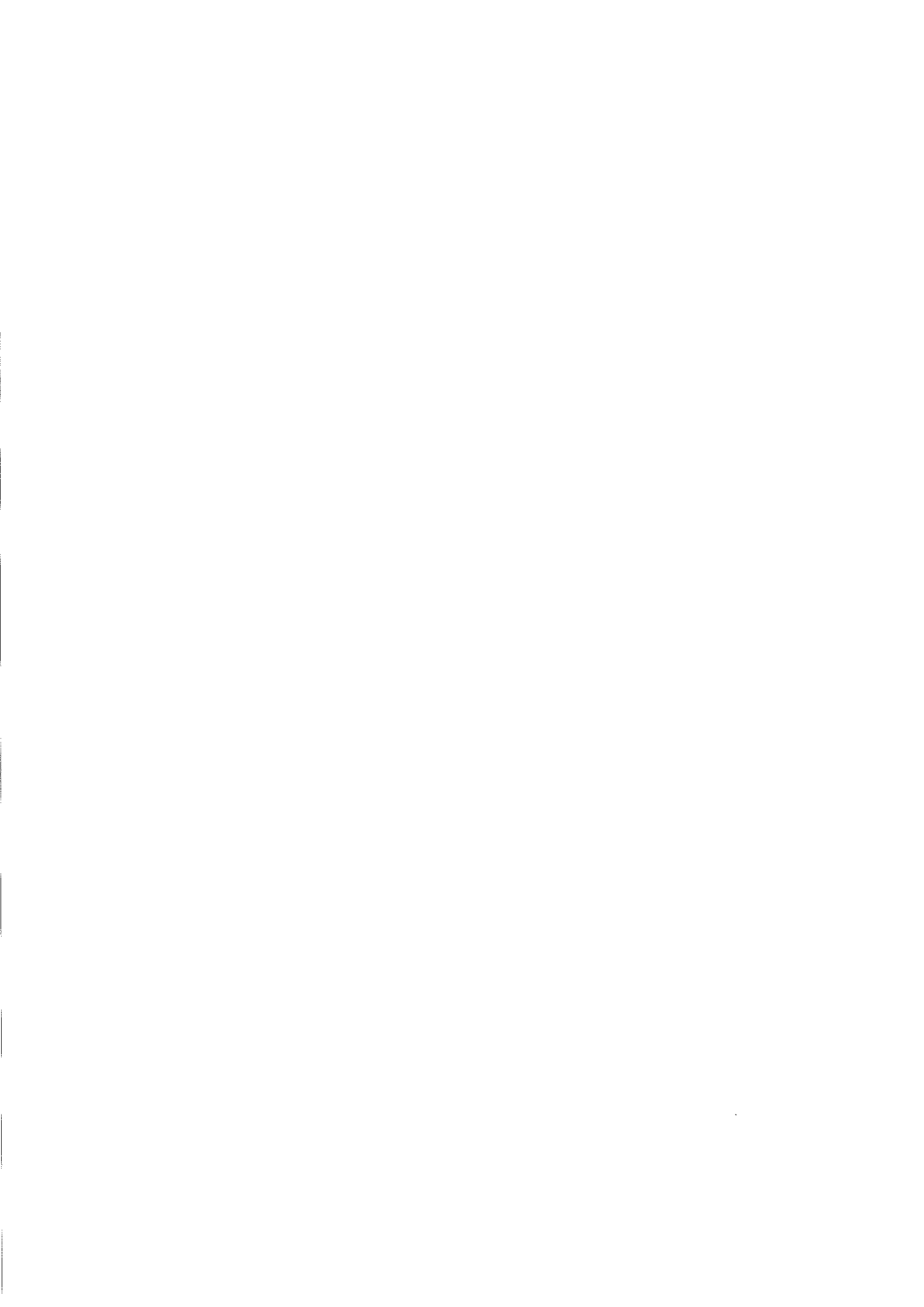


社会福祉法人 原町成年寮

2023（令和5）年度 事業報告

目次

法人総括	資料 C-1
葛飾通勤寮	資料 C-2
奏かつしか	資料 C-3
シード/フォレスト/就労定着支援センター	資料 C-4
かつしかセンター	資料 C-5
サザンクロスかつしか	資料 C-6
アンジュ	資料 C-7
ドロップ	資料 C-8
はんもっく	資料 C-9
糸でんわ	資料 C-10
奥戸福祉館	資料 C-11
Craft（クラフト）	資料 C-12
シャイン	資料 C-13
シャングリラ	資料 C-14



事業報告

2023年度

(令和5年)

社会福祉法人原町成年寮

2023年度 社会福祉法人原町成年寮 事業報告

1 原町成年寮基本理念

① 就労・自立生活に向けた支援

原町成年寮は、一人ひとりの自立した社会生活を実現するため、多様な就労・日中活動支援を行っています。利用者の皆様が、社会の一員としての役割と責任を担いつつ、活躍し成長していただけるよう、日々支援しています

② 豊かな人生をおくることへの支援

原町成年寮は、健康で安心・安全な生活を保障し、利用者の皆様が望む生活の実現をサポートしています。一人ひとりの個性を尊重し、日々の生活で豊かさを感じていただけるよう支援しています

③ 地域社会への貢献をめざす支援

原町成年寮は、地域との交流や情報交換を行い、利用者の皆様が地域社会の一員として貢献できるよう支援しています

2 法人主要な事業報告

- ・第8次プロジェクト（2021年度～2023年度）の最終年度であるため、中間見直しに伴う事業推進を実施。
- ・新型コロナの5類移行により、法人BCP及びコロナ対策フェーズを解除した。ようやく普段の日常が戻ってきた1年であった。
- ・重大な事故がグループホームで2件発生。大いなる反省が必要であった。
- ・新グループホームの建設、開設はコロナで1年延期したが、元の第一原町成年寮跡地に「ずいん」を設置した。これにより長年、耐震性が危惧された「渋江公園前生活寮」を廃止できた。
- ・居宅介護事業所「ドロップ」を援助センタービルに移動。様々な職員との意思疎通を図った。
- ・シャングリラ倉庫に法人研修室並びに法人本部書庫を設置して、秘密保持を重視した。
- ・経理部員の半数を集約し、業務の連続性を目指した。今後も検討する。
- ・アンジュを休止し、自閉症対応の通所事業所とすべく改修。それに伴いシャングリラを60名定員に増加。シャイン従たる事業所つむぎを廃止した。

令和5年度

葛飾通勤寮 事業実績報告

社会福祉法人 原町成年寮

通勤寮の4つの自立の支援

1・精神的自立 2・生活の自立 3・社会的自立 4・経済的自立を掲げて、利用者一人一人の力に合わせて、課題を見極めて取り組み内容を確認している。

利用者状況

コロナウイルスが第五類になり、行事プログラム等を通常に戻すことができた。

今年度入寮者（R5・1月現在）

男性	前生活	女性	全生活
K・N	家庭	J・T	児童養護（新卒）
S・O	児童養護（新卒）	K・A	児童養護（新卒）
T・Y	家庭（新卒）	R・U	GH
T・S	家庭（新卒）		
S・O	家庭（入寮予定）		
E	家庭（入寮予定）		

今年度退寮（卒寮）者（R5・1月現在）

男性	移行先	女性	移行先
R・M	他法人 GH	R・K	奏かつしか GH
K・N	家庭	R・T	奏かつしか GH
G・S	家庭	K・Y	奏かつしか GH

前年度は、コロナウイルスの影響で、入寮者を制限してきたが、今年度になり制限解除をした。男女とも希望者は多く、来年度には年間平均30人は確保できる予定。

そのためには、スムーズな入寮までの段取りを踏んでいく。

さらに、入寮希望を多く確保するために、外部に向けての営業も欠かせない。

計画相談事業と連携しながら、特別支援学校・児童養護施設などにも理解・協力を仰ぎたい。

【利用者状況】

精神的に弱い利用者が多く、精神的自立で当てはめるのであれば自己肯定感が低く、いやなこと、苦手なことへの気持ちの整理が自身でできず、すぐに自傷行為や死に直結させてしまう傾向にある。

職場での嫌なことを、相談するタイミングや、それを言葉にすることが苦手である。そのた

め、一人で抱え込む。作業能力は高いが、周りとのコミュニケーションが取れない、周りと比較して落ち込むなどで、退職者が男性1名・女性2名となった。

男性1名は他法人の就労移行を経由し、現在は就職。女性1名は法人内就労移行、もう1名は、法人内就労継続B型を利用することとした。

精神不安定者をどのように支援していくかが課題となる。

基本的な社会性が身につけていない利用者が多く、幼稚性がみられる。自己肯定感や自己有用感が低い割には、自分本位な場面が目立つ。相手と比べる、相手が羨ましいと感じ落ち込む、または怒りとして発散するが、自身の言動を振り返るまでに時間がかかる利用者が多い。必要な人には、内部のカウンセラーにつなげ、情報共有をしているが、それだけでは到底たりず、支援員側の対話時間も長時間にわたって必要とされた。

それに伴い、高度な支援員側の支援スキルも求められる。

通勤寮は合わない！辞めたい！と思っている利用者も数名いるが、家族の状況や金銭状況などでそれが叶わない利用者もいる。

利用者によっては、金銭のみ解除し、自身で管理をするという支援も必要になってきた。

それは、自身で管理することによって、より生活するのに必要な金銭の大切さや働くことの意義を知ってもらう支援となる。

自由を求める利用者も多くなっているので、通勤寮の指導的支援を煩わしく感じるようになる。利用者の思いや考えを尊重し、自己選択できるような支援スキルが求められる。

そこには、支援員の経験や利用者を観察・洞察する力など判断能力が必要とされる。

さらに、傾聴・共感する力も今までより求められた。

週間プログラム及び年間行事

【行事・プログラム等】

5月

オリエンテーションの実施。数年ぶりに一泊で茨城県日立市のスターツを借りて実施できた。職員含め37名の参加。調理職員にも参加してもらい食事の大切さを話してもらった。勉強はもちろんのこと、夜のレクリエーションや二日目のバーベキューでは、利用者の新たな姿を発見できる機会となった。

6月

スポーツ大会に参加

各種好きな競技に参加し、メダルを誇らしげに見せる利用者が多かった。

7月

納涼祭

町会から2名、奏かつしか所長、craft所長にも参加してもらった。

特別支援学校の先生方5名の参加。

利用者の職場からは、5企業からの参加があった。

利用者の出し物では、事前練習を頑張り、当日は見事に披露の場となった。女性利用者は全員浴衣を着て、お祭りの雰囲気盛り上げてくれた。

8月

キャンプ

茨城県御前山キャンプ場で実施。

1名朝食中に足にやけどを負ってしまった利用者がいたが、他は自然の中で大はしゃぎ。温暖化もあり、クーラーがない場所での寝泊まりはきつい状況ではあった。

10月

班旅行

3班に分かれ、実施。

1班 横浜・よみうりランド

2班 館山・鴨川

3班 山梨・富士急ハイランド

11月

通勤寮・奏かつしか・craft合同のかつくら祭

2年ぶりに実施することができた、地域向けのお祭り

たくさんのボランティアや町会の方々にポップコーンを作ってもらうなど大盛況だった。

共栄学園の吹奏楽、軽音部にも盛り上げてもらった。

今年は、葛飾元気野菜の販売も同時に実施。

事前準備から当日の準備まで大変だったが、みんなで力を合わせて無事に終えることができた。

通勤寮を利用したいという希望者も来寮され、後日見学、面接、入寮までつながったケースもある。反省としては、もう少し早くポスターなどの準備をし、各学校に配ることができたらよかったと思う。

12月

忘年会

感染症対策もあり、個々に向けてお寿司などを提供。皆勤賞や頑張ったで賞を表彰した。
全員で集まって食事をする機会も減る中、忘年会はみんな楽しそうだった。
昔のように一つの鍋をつつつくような忘年会もそろそろしたい！！

1月

正月旅行

奏かつしかと合同で熱海・伊東に行った。
通勤寮と奏かつしかから職員1名ずつ配置。

成人式

通勤寮体育館で実施。
成人者男性3名・女性2名
女性1名はインフルエンザで残念ながら欠席。別日で晴れ着を着ることができた。

その他

福祉マラソンやフットサルクラブの大会などにも参加

【保護者会】

12月3日に実施した。
10名以上の家族が集まった。通勤寮の利用者の様子、プログラム、就労、保健関係の支援内容を話しさせてもらった。
その後、GH見学も実施した。
個別面談という形ではなかったが、必要な方には各々に話をさせてもらった。
通勤寮の支援はご家族にもご理解いただかなければならない場面も多いので、このような機会は継続して実施したい。

【プログラム体験会】

1月21日（日）に実施。各特別支援学校に案内を送らせてもらい、参加者を募った。
親子合わせて23名の参加があった。（当日欠席1家族あった）
子供は食堂で金銭のプログラムを実施。ふりわけ表の作成をして、金銭について学んでもらった。親は、一階作業室で親離れ子離れについて簡単なワークをしながら考えてもらう時間とした。
一生懸命学びたい家族が多いという印象。来年度は年4回継続して実施していきたい。

金銭（毎週火曜日）・身辺（毎週金曜日）・自治会（月1回第4月曜日）・大掃除（月1回第4日曜日）・教養（第4金曜日）に実施した。

・金銭学習について

毎日の金銭出納帳の記入と、次期給与の振り分け表作成、個別費用チェックで一週間の自身の使い方の見直しをしている。自分の給与で生活を組み立てることを目標にし、予算内で購入することを学ぶ。出納帳を記入する習慣がない利用者や、計算が苦手な利用者も多い。

・身辺について

比較的女性は居室の整理整頓は身につけている利用者が多い。男性利用者に関しては、整理整頓、においに支援を入れなければいけない利用者が多数いた。その人に合わせたチェック表や、生活リズム表を作成し習慣づけをしていく。どのようにすれば綺麗さを維持できるのかを一緒に考えてきた。また、必要な衣類等の確認、買い物までを指導した。

・自治会

利用者主体の考え方に則り自治会を開催。利用者同士の話し合いの場を設けた。役員を筆頭に、生活をよりよくするための話し合いを実施した。行事ごとの話し合いなどもしたが、コロナウイルスの影響で中止になる行事が多く、役員の活躍の場が少なかった。

・教養

社会で生活するために必要な知識に焦点をあて必要な情報を伝える内容を心がけた。

4月通勤寮について・5月体調不良の対処法・6月光熱水費について・7月食事の選び方
8月マナーについて・9月歯磨きの大切さ（歯科衛生士による講義）・10月未来の身体今から作ってこう・11月社会人としての行動・12月社会人としての責任・1月仕事、働くこと・2月金銭について・3月まとめ、今後の生活

・性教育について

茶話会（女性）

月1回午前中に実施。午後はヨガ講師に来てもらいヨガを実施。「性」について様々な知識を学んでもらえるように検討した。学習のみでなく、自分の中に落とし込めるように内容を工夫した。

4月茶話会、ヨガの意味・5月生理について・6月健康できれいな私で過ごすために・7月協力しておもてなし準備をしよう・8月女性ならではの健康管理・9月女性のかかりやすい病気と予防・10月自分の声、仲間の声に耳を傾けよう・11月男女の距離・12月理想の男性観・1月・結婚観子供をもつことについて考えよう2月バレンタイン企画・3月「まとめ

男子ミーティング（男子）

コロナウイルスの影響で全体で集まることができず、資料を渡しそれぞれで読んでもらうこともあった。全体テーマとしての「相手を知り、自分を知る」さらに「どんな自分になりたいか」にそって毎月のテーマを考えた。

また、その後にスポーツをして体を動かし、ストレス発散とスポーツを通じ相手を思いやる心を意識して伝えてきた。

4月自己紹介・5月自分の取扱説明書作成・6月自分の苦手について・7月社会人としての身だしなみ・8月相手の事を考えようパート1・9月相手の事を考えようパート2・10月相手の事を考えようパート3・11月異性との距離感パート1・12月遺影との距離感パート2・1月自分のコントロール・2月、3月将来につて

その他

地域のボランティアをお願いし、楽しみながら生活に必要なことを学べる機会

・調理教室

月一回の日曜日に実施。男性2名・女性4名の希望者で実施した。自分たちで作りたいものを考え買い物もしてもらった。

4月タコライス、餃子・5月未実施・6月パスタ、コンソメスープ・7月チンジャオロース・8月麻婆ラーメン、サラダ、フルーツポンチ・9月ラタトゥイユ、ピラフ・10月トマトリゾット、マカロニサラダ・11月キムチ鍋、パンケーキ・12月中止・1月カルボナーラ・2月キンパ、韓国風スープ

・裁縫教室

月一回日曜日に実施。それぞれ作りたいものステッチ、バックなどを選択し、手縫い・ミシンを使って作成。出来上がりの満足感を得ることができた。

・職場定着支援

現在一般就労23名、就労継続B型から2名、就労移行1名。

コロナ過でなかなか職場訪問が実施できない状況だったが、少しずつ緩和されてきた印象だった。訪問が難しくても、電話で状況確認するなど、連携をはかってきた。

働くという意識が低い利用者も多く生活の場面と連動して職場定着支援をする中で意識付けができるように働きかけてきた。

また、特別支援学校や他機関との連携をし、職場定着に協力をお願いした。

働くための作業能力はあるが、精神的に不安定な利用者も多く、精神面での支えが課題となり、職場にご迷惑をおかけしてしまうこともあった。

・地域移行支援

地域移行支援員2名を中心として、余裕をもってスムーズに移行ができるよう支援した。

今年度は奏かつしかのグループホームに2名。他法人のグループホームに男性1名、

家庭へ戻ったのが2名。

移行するまでの段取りを各関係機関と調整させてもらい連携をとった。

移行後の支援として、アフターケアも実施し、移行後の様子もうかがうことができた。

移行に当たっては、早い段階で自身が選択できるよう、見学や一人暮らしに必要なこと等を学べる機会を引き続きつくっていきたい。

・連携型グループホーム（葛の葉）

通勤寮と同等の支援の提供という役割がある通過型のグループホームなので、通勤寮のプログラムや行事に参加してもらった。

通過型なので、期限がくれば次の生活の場を探さなければならないので、地域移行支援の連携業務が求められる。

今年度は、調理員も配置し、朝夕の食事提供をグループホーム内で可能にし、利用者の負担軽減と安心できる環境を整えることができた。

・利用者健康管理

定期通院者の把握、通院同行、医療関係書類の整理、診断書の管理、緊急常備薬の補充、精神手帳、自立支援医療受給者証の手続き、年二回の健康診断の実施。

カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを受けている利用者は2名。カウンセラーとの連携で、生活の場での支援のアドバイスや気づき等を共有させてもらった。

服薬管理

鍵のかかるロッカーで管理をしているが、服薬忘れなどのヒヤリハットが多い。

精神薬を服用している利用者も多くなり、管理には十分注意していきたい。

また、通院日程の管理、同行なども多くなってきている。家族にも協力していただき、漏れのないように連携していく。

・預り金管理及び日常の金銭処理

基本的に給与が入ったら、利用者がATMで引き出してくるようになってきているが、その際使い込みが2件あった。自身の預金からの使い込みではあるが、大切な貯金として小遣いからの返金してもらった。定期的な通帳記帳と確認が必要。

振り分け後の個袋の締めについても迅速に実施する必要があった。

・体験、短訓利用

体験、短期訓練の総利用数は175日。体験利用者数16名。短訓利用者数14名。

地域や特別支援学校へ、次の生活の見通しとして利用していただくが、コロナウイルス感染者が寮内で出てしまい、利用中止になってしまった期間があった。

利用後に実際に入寮しているのは4名。

引き続き入寮者の確保としても、体験・短訓事業は継続できるようにしていく。

・給食

常勤3名とパート職員1名で調理を実施している。

衛生管理

〇157やノロウイルス感染予防対策として食事前の手洗いうがいの徹底を呼び掛けた。

食堂テーブルや配膳代の消毒も徹底。食堂、厨房の清掃も同様に二か月に1回の定期清掃を実施。害虫駆除も年二回業者をお願いしている。

栄養士との月1回の献立検討を実施し、利用者の好みを献立に盛り込んだ。季節を楽しめる食事提供もした。

・地域、防災

東堀切町会に加盟し、氷川神社祭りや親子ふれあい祭りの手伝いに参加させてもらった。

その他町会の防災

成人式には町会長が出席して下さった。

防災訓練

毎月避難訓練の実施を実施した。火災や地震を想定しての避難訓練。利用者にあらかじめ伝えずに訓練する時もあったが、毎月の訓練の成果があり、スムーズに避難することができている。

防災館の利用は、コロナウイルスの影響で中止とした。

Craftと奏かつしか合同の防災委員会では、BCP計画を完成させた。防災用品や食料の見直しは適宜実施。9月には、合同で職員に対しての避難訓練や、消火活動、AEDの使い方を学んだ。さらに、試しに炊き出しを実施したが、着火までに時間がかかるなど、新たな問題点

が見つかった。

・その他の活動

苦情解決事業

月一回オンブズマンに来てもらい、利用者からの意見を取り上げてもらった。

社会福祉士実習生の受け入れ

日本福祉大から男性1名 女性1名

上智大学 男性1名

社会事業大学 女性1名

計4名の受け入れ。

去年度から実習要綱が変わり、2年生からの受け入れがある。3年生の場合は自身で事業所を選んでくるが、2年生は学校の振分で来るため、実習意欲も違うことが感じられた。

ただ、実習から事業所に興味を持ち、就職したいという希望も出ているため、今後も積極的に受け入れ、新卒採用に協力していきたい。

虐待防止対策

虐待防止委員会を設置し、外部研修をオンラインで受けた。虐待防止セルフチェックやCraft・奏かつしか職員と合同で研修会を実施している。

福祉サービス第三者評価

今年度も第三者評価を実施。一般社団法人 チーム結で実施。

利用者の素直な声や、職員間での評価が見えて今後のチーム支援や利用者への支援に大変参考になる。

個人情報保護

個人情報保護規定に基づき、個人情報保護に努めるため、今年度は大塚商會に協力頂き、コピーをカードリーダーにし、だれが何をコピーしたのかなどがわかるような設定を導入した。

職員の支援力強化のための内部研修

内部研修を実施し、支援力強化と、職員同士のコミュニケーションの場として今年度は2回実施することができた。来年度に向けての通勤寮の在り方を話し合う会議を数度実施した。

・ 職員状況

健康管理

常勤職員は年2回の健康診断を実施。交代勤務のないパート職員は年1回の健康診断を実施。

メンタルヘルス・ストレスチェックの実施については、年1回実施している。

有休休暇取得等については、年間5日間の取得義務や夏休、冬休取得、必要に応じての特別休暇も取得できている。また、1人年間15日以上の有給取得も可能にした。

関係団体への職員派遣と連携

東京都社会福祉協議会、東京都発達障害支援協会東京都生活サポート協会への役員として施設長が参加。

葛飾特別支援学校の連絡協議会、墨田区区分審査会委員、足立区働く部会に参加した。

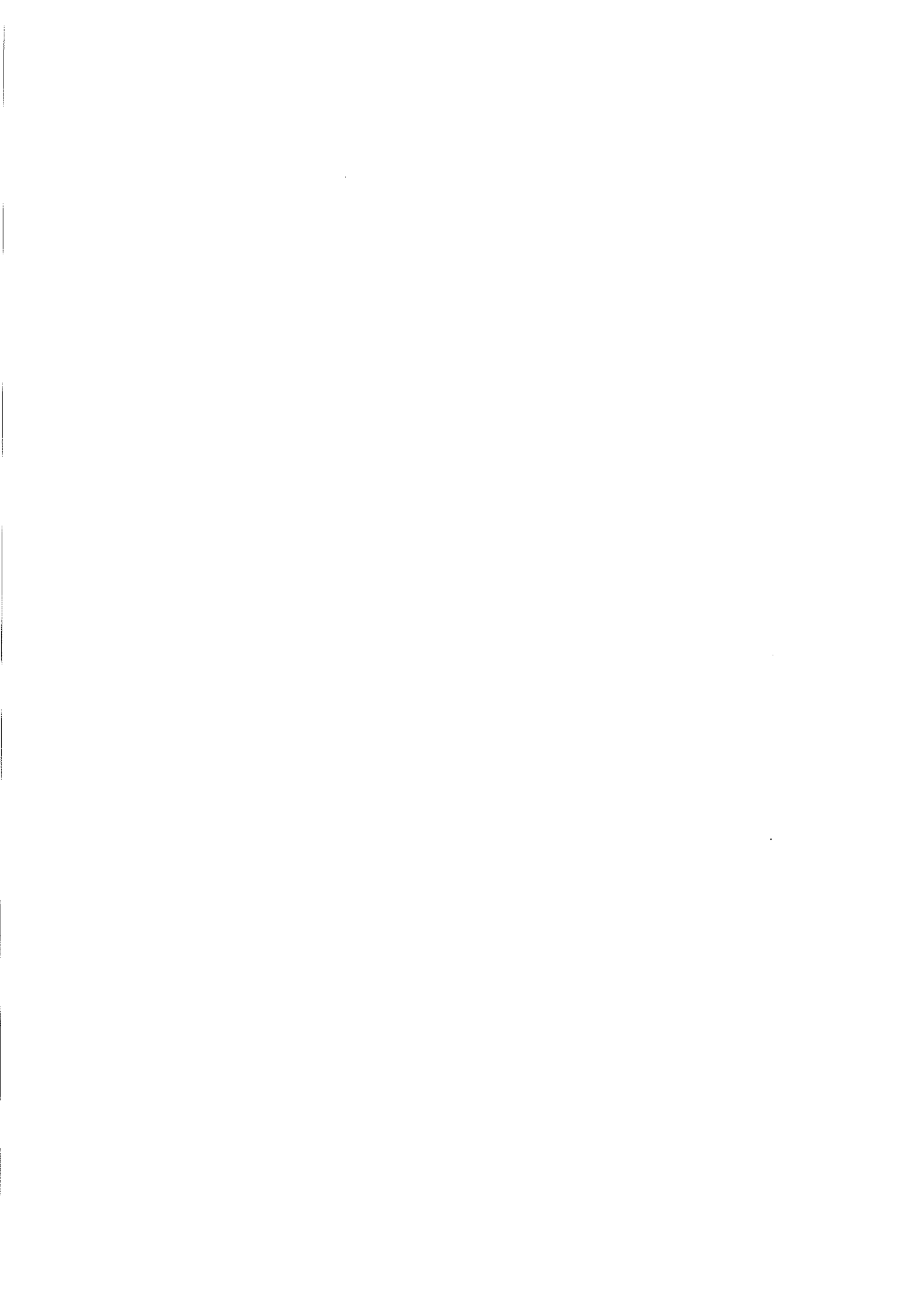
外部・内部研修の参加

コロナウイルス蔓延前の直接研修参加は難しかったが、オンラインによる研修がある場合には積極的に参加できるようにした。

法人内部研修の1年目・3年目・主任等研修、人事考課研修など必要な職員が参加した。

支援員アルバイトの採用

今までは支援員の常勤雇用をしてきたが、社会福祉士の実習をする中で、通勤寮の業務に興味をもってくれる学生がいた。学びの為に、今後の新卒採用につなげるため、夜勤アルバイト1名、13-21勤務アルバイト1名を雇用することにした。



令和5年度
奏かつしか事業報告

社会福祉法人 原町成年寮
共同生活援助事業所 奏かつしか

3月1日時点での現員

葛の葉 定員4名 現員3名

ことの葉 定員3名 現員2名

ひと葉 定員3名 現員3名

ふた葉 定員4名 現員3名

おーる 定員4名 現員4名

ますと 定員2名 現員2名

事業所として定員20名に対し現員が17名で空き部屋が3部屋となっている。

今年度の入退寮状況は下記の通りである。

新規として葛飾通勤寮から葛の葉へ2名退寮として、葛の葉から他法人のグループホームへ1名ことの葉から彼氏と同棲のため1名

また、ひと葉の1名が葛飾通勤寮へ移行し、再び自立訓練を開始した。

【支援体制】

新年度より管理者としてかつしかセンターより異動。

5月より支援員として女性1名入職。

12月に非常勤支援員として男性1名雇用し2月より常勤として従事。

支援員が増えたことで今まで利用者さんが取り組み、また支援として大事にしてきた「自立」への意識を大切に利用者さんの自立度が下がらないように引き続き配慮して参りたい。

また、今年度は月に1人2回ほどの夜勤を行っていただいたが、夜勤寮の機能を生かすため夜勤の回数や寮回りの組み方など柔軟に対応していきたい。

【個別支援計画】

今年度はかつしかセンターと共通のアセスメントシートの導入を計画。

試験的に運用を始めた。

個別支援計画の作成と並行してフォーマットを見直しバージョンアップを検討中。

【預り金管理】

半期に一度内部監査実施。適切に管理されていた。

食費・日用品費・光熱水費は半期に一度残金を利用者さんに返金。

【健康管理/コロナウイルス・その他ウイルス対策】

健康診断を年1回実施。主に勤め先からの指示で受けていただいている。

会社からの指示がない方は個別に対応。

男性利用者さんが健康診断で、糖尿の再検査となり服薬開始となった。

保健指導の中で食生活の改善が求められるが、金銭を自己管理していること食が精神的な安定の一端であることから継続して取り組むことが難しい。

利用者さんとも対話を重ねて取り組みへの意欲の向上をめざす。

インフルエンザ予防接種を年1回実施。

集団接種として葛飾通勤寮と合同で実施。コロナウイルスワクチン予防接種は、希望者に対して個別に対応。

コロナウイルス感染者は、女性3名・男性2名コロナの分類が5類となり、濃厚接触の概念がなくなったため感染者が出てもグループホームのロックダウンや感染者以外の利用者さんの出勤停止などはなかった。

今後、上記の生活習慣病への取り組み・自己管理している薬の服薬等、個別での課題が予想される。

【食事提供】

平日は調理職員による食事提供。

土曜日の朝食は希望者へSBBの提供を実施。

ひと葉・ことの葉の調理職員が、長期休みとなり、支援員で食事提供を実施。

しかし、支援員ですべてを補うことは難しくいくつかのサービスを利用し対応。

並行して求人を出し週2日で勤務してくれる調理員を雇用。残りの曜日を葛飾通勤寮に依頼しおかずを準備していただき配膳を支援員が行った。

同様にふた葉でも調理の方の長期休みがあったが、上記の経験を活かし、周りの力を借り、また普段ボランティアでかかわっていただいている方にも有償で協力いただいたりに対応できたことはよかった。

現在は休まれていた調理の方が戻られて、以前の体制で提供ができている。

今後として、調理の方の勤務体制や業務内容のためか、従事してくださる方の確保が難しくまた現在従事されている方も高齢になってきていることが、課題の一つである。

また、支援員が少しでも利用者さんへ手作りを提供したいと提供方法の優先順位を考えてくれていたことがとても大切なことだと感じ引き続き大事にしていきたい。

【就労支援】

現員 17 名全員が一般就労の継続ができています（1 名休職中）。

就労に課題がある利用者さんの内、1 名はジョブコーチが介入し取り組みを継続中。

もう 1 名は区の就労支援センターに協力を仰ぎ、就労準備性の向上を目指し支援を開始した。

また、年度初めごろより女性利用者さんが 1 名、職場内での精神的な負荷が原因で休職が続いている。職員同行でかかりつけの精神科に隔週で通院し、服薬治療を行っている。

昨年末より職場の方との面談を行うなど少しずつではあるが復職に向けて利用者さんの気持ちに寄り添った支援に取り組んでいる。

ここ数年コロナ禍で、職場訪問ができていなかったため、課題に対して後手になりがちではあったが、コロナが 5 類となり徐々に職場訪問のアポイントがとれるようになった。

今後は職場訪問を増やし事前の対応と職場での利用者さんの様子の把握に取り組む。

そして引き続き生活支援の立場から就労の安定が継続できるよう必要な支援を行ってまいります。

【移行準備支援】

葛の葉より移行予定利用者が 2 名。

1 名は他法人のグループホームへの移行に向けて 12 月に体験を実施。

しかし、支援体制と本人の生活リズムとがマッチせず断念。

現在も移行先を探している。

もう 1 名はひと葉への移行を目指し、年始からひと葉での食事会を 3 回実施。

2 月に 2 週間の体験を 2 回実施。

3 月にひと葉へ移行ができた。

また、ことの葉の女性利用者さん 1 名が、念願であった彼氏との同棲をスタートさせることができた。支援員達が会社と連携を取りながら、本人の気持ちに寄り添った支援を続けてきた結果だと思う。

今後も葛の葉においては葛飾通勤寮と連携を取りながらグループホームの立場から移行に必要なスキルを身につけるための助言を行う。また奏かつしかのグループホームへの移行希望があれば、見学や体験など利用者さんが安心して移行できる情報提供と場の提供を行ってまいります。

【会議・研修】

月に 2 回チーム会議を実施。個別の支援の確認と情報の共有を行う。

ミーティングは葛飾通勤寮と合同で13時と17時の2回行っていたが、現在は13時の合同へ参加し、17:00は奏かつしかのみで行っている。

研修は全員が外部研修を受講することができた。報告書も提出していただいている。

今後、月2回の会議の内、後半の会議の中で、研修報告できる時間を確保し研修内容の共有を図っていきたい。

【権利擁護・虐待防止】

今年度虐待にあたる事例はなし。

外部研修へ1名参加。内部研修を1回実施。

来年度も引き続き風通しの良い職場環境を整えるとともに、支援員一人一人のメンタルケアにも配慮していく。

【防災】

定期的に葛飾通勤寮・クラフト・奏かつしか合同の防災委員会に参加。

作成されたBCPを葛飾通勤寮・クラフト・奏かつしかの全員で読み合わせを行い共有を図った。

利用者さんにたいしては、避難訓練の中で避難経路の確認・防災バッグの確認などを行っている。

男性利用者さんは防災館での訓練を実施予定。

東堀切町会の防災訓練に希望の利用者さんと共に参加することができた。

【年間行事計画】

年度内で宿泊旅行1回・日帰り旅行を実施。今年度は職員が増えたため日帰り旅行の行き先を利用者さんから希望を取り3コースを用意して実施。

今年度は旅行だけではなく、忘年会やグループホームごとの食事会なども行った。

また、通勤寮と合同でバスケットボールクラブやフットサルクラブ、ストレッチなどの機会を提供した。

【その他】

葛飾通勤寮と連携を取りながら、卒寮する利用者さんの受け皿として新寮の開設を検討。

来年度の課題として引き継ぐ。

奏かつしか独自の事務所開設までは至らなかったが、段階的に進められるよう法人と協議を継続中。

文責：富永



シード・フォレスト 2023年度事業報告

シード(生活訓練)
フォレスト(就労移行支援)

シード（生活訓練）定員15名

フォレスト（就労移行支援）定員20名

1. 利用状況 月間平均利用者数 合計61.3人/月

シード 平均利用者数 12.3人/月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数		13	13	13	12	12	12	13	12	12	12	12	12	148
のべ稼働日数		299	299	325	276	300	264	312	276	264	252	264	276	3407
新規利用		3	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	6
退所者		0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	4
退所者内訳	うち就職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち就労移行	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3
	うち他施設	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
実習・体験利用者		0	0	0	5	10	0	0	1	2	0	0	0	18

フォレスト 平均利用者数 18.3人/月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数		16	16	17	21	19	20	20	18	16	18	19	20	220
のべ稼働日数														
新規利用		5	0	1	4	1	1	1	1	0	2	2	1	19
退所者		0	0	0	3	0	1	3	2	0	1	0	0	10
退所者内訳	うち就職	1	0	0	0	2	1	1	3	2	0	1	0	11
	うち生活訓練	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	うち他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実習・体験利用者		1	3	1	3	13	2	5	3	5	5	3	0	44

2. 支援体制

訓練プログラム（シード・フォレスト）

・シードでは周りのペースに合わせて行動できるようになることを目標に、引き続き平井ビルにて訓練プログラムとしてダンス・体操を行い、午前中に歩行訓練を行った。

・フォレストでは全体指示に対して適切な行動を継続できるように、「いいね」を伝え、プラスのフィードバックを効果的に行うことで、行動の定着を図ることができるよう引き続き取り組んだ。また、目標を達成するための具体的な行動を明示し、一人ひとりが達成できるようにフィードバックの徹底を図った。

3. 事業目標達成状況

① 地域に開かれた施設運営

1. 毎月ブログ記事の更新を行った。
2. 夏休み体験講座、春休み親子見学会を開催した。夏休み体験講座には計12名が参加。
3. 自立カフェを開催し、特別支援学校の保護者に向け、家庭での関わり方の情報提供を行った。

② 利用者に寄り添い、一人ひとりの目標達成に向けた支援

1. 月1回の勉強会を行った。
2. シード・フォレストのプログラムの見直しを行った。

③ フォレスト目標就職者数15名

フォレストからの就職者数は10名。

原町成年寮就労定着支援センター 2023年度事業報告

原町成年寮就労定着支援センター(就労定着支援)

原町成年寮就労定着支援センター（就労定着支援）定員なし

1. 利用状況

原町成年寮就労定着支援センター 平均利用者数 30.7人/月

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
登録者数	29	32	32	34	34	34	32	30	30	28	26	27	368
支援件数	29	32	32	34	34	34	31	30	29	28	26	27	366
職場訪問件数	11	9	14	13	16	9	11	9	12	7	10	6	127
利用終了	0	0	1	1	1	2	1	0	3	2	4	0	15
新規利用	1	3	0	3	1	0	2	0	0	1	0	1	12

2. 就労定着率

① 過去3年間における就労定着支援の総利用者数		② ①のうち前年度末時点の就労継続者数	
33	人	29	人

期間
①令和3年度、令和4年度及び令和5年度

就労定着率 (②÷①)
87%

3. 支援体制

就労定着支援

新型コロナが落ち着き、職場訪問が出来るようになった会社も増え職場訪問回数を従来行っていた水準に戻した。その結果対面での定着支援ができ、定着率が安定した。

退職に至った利用者で再度フォレストで受け入れ出来る利用者もあり、再就職に向けて訓練を行った。

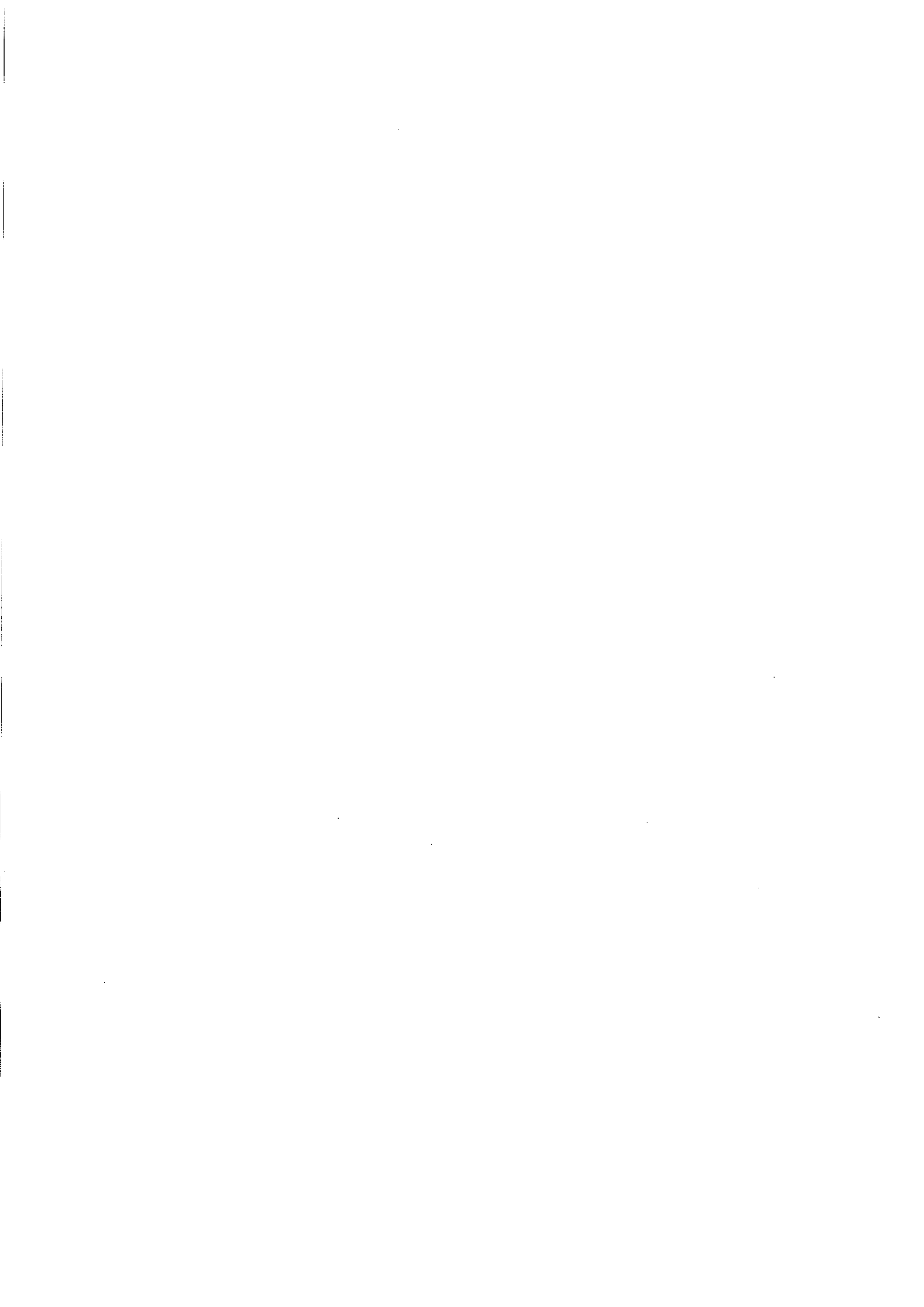
4. 事業目標達成状況

① 地域に開かれた施設運営

1. 夏休み体験講座、春休み親子見学会を開催した。夏休み体験講座には計12名が参加。
2. 自立カフェを開催し、特別支援学校の保護者に向け、家庭での関わり方の情報提供を行った。

② 利用者に寄り添い、一人ひとりの目標達成に向けた支援

1. 月1回の勉強会を行った。



資料 C-5

原町成年寮かつしかセンター

2023年度事業報告

1. 利用実績

定員	非該当/ 区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
201名	74	30	32	40	9	5	190名

2. 利用者状況

① 入・退寮

長期入院 4名 (精神科2名、リハビリ病院2名)
 他事業所GHから入寮 1名
 退寮 (他法人GHへ移行) 1名
 逝去 1名

② 健康

*持病の悪化や骨折による入院が4件有った。全員が年度内に退院出来ている。
 その内1名は元のGHでの生活は難しく、ずいぶんに移った。
 *インフルエンザ予防接種、コロナワクチン接種、健康診断をそれぞれ行った。

③ 就労

2名の利用者が再就職出来た (フォレストを利用)。

④ 余暇

ドロップ等を活用し、個別に対応した。

⑤ その他

清掃の支援が必要な利用者については、職員又は奥戸福祉館の方で代行している。

3. グループホーム増減他 (*4月1日付けで12ユニットをサザンクロスかつしかへ)

	グループホーム	変更内容	日付
開設	ずいぶん A/B	定員5名×2	9月1日付
開設	きさらぎ	定員2名	2月1日付
定員減	ソフィア	定員5名へ	7月1日付
廃寮	渋江公園前生活寮	定員6名	8月末付
廃寮	公園前の下生活寮	定員4名	1月末付

4. 職員研修

内容	研修日	備考
介護記録研修	4月	
意思決定支援	7月	
てんかん基礎講座	8月	
ダウン症支援セミナー-青年期	8月	

強度行動障害支援者養成研 (基礎研修)	8月	
市販薬と健康食糧品の正しい知識 を学ぶ	10～12月	
当事者主体の地域移行・地域生 活支援とは	12月	
就業支援基礎研修	12月	
障害者虐待防止・権利擁護研修	12月	全常勤職員参加
発達障害と二次的な障害	2月	
障害者グループホーム従事者基礎 研修	2月	
摂食及び嚥下に関する基礎研修	2月	
介護保険施設における安全対策強 化研修	2月	
発達障害と二次的な障害	2月	
報告・指示の仕方、報告の受け方 研修	3月	
事故を未然に防ぐには	3月	
介護職のためのここは押さえてお きたい	3月	
言い方を変えるだけで後輩(部下) が育つ	3月	
リーダーの役割	3月	
行動・心理状態(問題行動)はなぜ 起こるのか	3月	

リモート研修の活用の結果、現場職員全員が受講出来ている。

5. その他

- ① 防災訓練 全GHで、年間2回実施出来た。
- ② 第三者評価 今年度受けている。
- ③ 会議 全体会議(全常勤職員対象) 4回
チーム会議 月2回
主任等会議(所長・主任・キャップ対象) 月1回 それぞれ開催した。



事業報告

2023年度

社会福祉法人原町成年寮
共同生活援助事業所
サザンクロスかつしか

1, 支援方針

幸せな地域生活を支えます。

《支援上、大切にすること》

- (1) 幸せの形は十人十色。個人としっかり向き合い、未来につながる支援をします。
- (2) ライフステージに合わせた支援を提供します。
- (3) 利用者も職員も人生を謳歌し、幸せになります。
- (4) 安心、安全、清潔な環境を作ります。
- (5) 地域に愛されるグループホームを目指します。
- (6) 職員間で情報を共有し、チーム一丸となって働きます。

今年度は重大事故が2件発生した。地域での幸せの生活とは反するこれらの事項は、障害者支援に携わるものとして、大きな教訓と反省が残った。1件は、こんにやくゼリーの誤飲事故より、気管切開等医療ケアが発生し、療養型病院でペットでの生活になった案件。もう1件は、濡れた衣服を服を着たまま、ドライヤーで乾かし、火傷を負わせた案件。ただやみくもに禁止しても、抜本的な解決にはならず、有効な対策を立てることが、かなり難しかった。想定することが難しくとも、事故に至らせないためには、日々の危機管理や高い専門性、そして人間性が求められる。今後、重度・高齢化が進む中、労働者人口が減る現実において、労働環境も含む大きな枠組みで業務改善、支援内容の向上が必要と考えている。

今年度取り組む課題

(1) 個別支援計画の充実

- ① より幸せに近づけるように、個別支援計画の様式の見直しをします。
- ② 個別支援計画の作成効率と支援の達成度に配慮しながら、より良い支援を目指します。

個別支援計画の見直しは実施できなかった。個別支援計画を作成する時間や手間は、かなりのものになっており、今後を考えると、効率化と内容の充実に取り組まなければならない。法人全体との整合性も考えながら、来年度も取り組む。

(2) 洪水に対する、防災対策を行います。

- ① 洪水後のBCP(事業継続計画)を作成します。
- ② 他法人・他事業所間との災害後の協力体制を模索します。

BCPIに関しては、若干の変更を加えた。来年度に向けて、更なる内容の充実を目指す。特に、能登半島地震のような直下型地震で、グループホームが倒壊した場合の想定をしていなかったの、引き続き、各ユニットの動きを確認していく。洪水後の対策についても、継続で検討していく。

(3) 支援者の労働環境を整え、事業所間の協力体制を作ります

- ① シャイン従たる事業所「つむぎ」と行動援護事業所「ドロップ」と連携し、具体的な支援体制を作ります。
- ② 各グループ間で、兼務・応援体制を作り、勤務に反映させます。
 - 1) 東立石チーム、ゆりりチーム、あさもえチームのサビ管会議参加者は、協力体制を取って、各自外回り業務をヘルプでは入れるようにします。5月、6月で引き継ぎ、7月から正式にヘルプ体制を取ります。
 - 2) なぎさチーム、みさきチームは、支援者が相互に夜勤に入り、支援の幅を広げます。
 - 3) 障害者支援施設ICT機器導入支援モデル事業にエントリーし、主に見守り支援機器、介護ロボットの導より労働環境の充実を目指す。

事業所間の協力体制は取れることができたが、事業所内協力体制は作ることができなかった。ICTの機器導入については、来年度実施予定。利用者の健康管理だけではなく、夜勤業務の軽減につながるとも考えているので、積極的に導入を進める。

(4) サービス管理責任者会議の機能を増強します。

- ① 業務の明確にして、次の人材を育てます。

<主任・キャップ業務>

 - 1) 個別支援・個別会計・食費・光熱水費・日用品費の統括
 - 2) 個別支援計画の作成
 - 3) 勤務表の作成、別支援チームとの連絡調整

- 4) 対外機関(職場・日中活動の場・医療機関・実施機関他)との調整(統括として)
- 5) 家族との調整(統括として)
- 6) 支援スタッフへ指導・助言
- 7) 受給者証、支給決定の確認

<所長業務>

- 1) 市区町村、東京都への報告・相談(重要事項を中心に)
 - 2) 提供するサービスの質の評価と改善(提供された支援の確認)
 - 3) 利用者・家族に対する相談及び援助(重要事項を中心に)
 - 4) 従業員の勤務体制の確保、採用に係る事項
 - 5) 緊急時の対応、非常災害対策等の準備
 - 6) 記録の整備、個人情報管理
 - 7) 利用者の身体拘束等の禁止の順守
 - 8) 受給者証、支給決定の確認と請求業務の確認
- ② サビ管研修、GH運営協議会研修にファシリテーターを派遣します。
 - ③ 都コーディネーター事業の事務局機能及びコーディネート機能を持ちます。
 - ④ 人権、権利擁護を絡めた研修を年2回を実施します。
 - ⑤ 全体会議 隔月の奇数月に開催。年6回実施します。
 - ⑥ サービス管理責任者会議
所長、各チーム主任およびチームリーダーが出席。月1回、統括会議の翌日の水曜日実施。
- 1) 各チーム間の連絡調整、困難事例、懸案事項の検討。
サービス管理責任者会議終了後、リスクマネジメント委員会、虐待防止委員会を実施する。
 - 2) リスクマネジメント委員会 事故報告書・ヒヤリハット報告書の確認検討。方針の作成
 - 3) 虐待防止委員会 虐待案件の確認、対応方法の確認と指示。研修の立案。
- ⑦ 支援会議
各支援チームで、月1～2回の支援会議をおこなう。リスクマネジメントの検証もおこなう。
周知検討事項の他、個別支援計画の策定、検討の場とする。

概ね、計画通り実施したが、サービス管理者研修及びグループホーム運営協議会研修には、ファシリテーターを派遣することはできなかった。

(5) 預かり金の管理システムの充実及び構築

- ① 通帳・印鑑の主任・サビ管管理
- ② 個別会計管理ケースの施錠化
- ③ チーム内監査の実施(年2回)
- ④ 内部監査の実施(年2回)。4月20日(木)10:30～、10月19日(木)10:30～。全体で実施する。

業務軽減目指して、会計マニュアルを更新し、一定の効果が出ている。内部監査は、予定通り実施され、大きな問題等なかった。

3, 研修

(1) 内部研修

全体会議終了後に、年6回実施する。

	開催日	時間	内容
第1回	5月25日(木)	14:00～15:00	権利擁護研修①身体拘束の指針
第2回	7月27日(木)	14:00～15:00	権利擁護研修②グレースーンへの対応
第3回	9月28日(木)	14:00～15:00	権利擁護研修③虐待防止委員会の役割
第4回	11月30日(木)	14:00～15:00	感染症・食中毒対策研修
第5回	1月25日(木)	14:00～15:00	防災対策(業務継続計画)
第6回	3月28日(木)	14:00～15:00	法人・事業所の事業計画説明

(2) 外部研修

- ① SDS (Self Development System 自己啓発援助制度)を採用し、自発的な研修参加。
- ② サービス管理責任者会議からの指名。
- ③ 計画的な施設見学は、新型コロナウイルスの状況を見ながら、検討します。
- ④ 支援員1人に付き1回、興味のあるオンライン研修に参加し、研修報告を上げます。

(3) 資格取得研修

- ① 移動支援従事者
- ② 行動援護従事者
- ③ 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・認定心理士

(4) OJT研修

- ① 新人職員に、目指すべき目標を提示し、終了時に評価する。OJT担当を指名、3ヶ月間設定し、主に最初の1ヶ月間を重点的に実施します。
- ② 始めて会計を持つ際に、会計のOJT担当を指名し、1ヵ月ごとに会計を締めながら、習熟度を確認する。主任・チームリーダー・所長の許可が出たら、一人で会計が行える形にします。

内部研修は、予定通りに実施。権利擁護研修では、始めてWEB研修を実施し、皆で同じ動画を見た上で、グループワークを実施している。感染症・食中毒対策研修で、外部講師を依頼した。

4, 委員会担当

- (1) 法人内担当 省略
- (2) 事業所内担当 省略

6, 支援体制

(1) 第3かつしかセンター

- | | | | |
|---------|----|-----|------|
| ①東立石チーム | 所長 | 阿久津 | 以下省略 |
| ②ゆるりチーム | 所長 | 松本亜 | 以下省略 |

(2) 第4かつしかセンター

- | | | | |
|-------------|----|----|------|
| ③あさもえチーム | 所長 | 三瓶 | 以下省略 |
| ④なぎさ・みさきチーム | 所長 | 渡邊 | 以下省略 |

以上

資料 C-7

生活介護事業所アンジュ

事業報告

2023年度

1. 運営理念

- (1) 利用者の人権と自己決定を尊重した支援を行います。
- (2) 利用者の個性と自主性、主体性を大切にした支援を行います。
- (3) 行動障害対応できる人材を育て、地域に貢献します。

10月1日からの通所となったが、全員が自閉傾向及び自閉症の利用者であったが、大きな問題は起こることなく移行することができた。支援者が利用者の個性や自主性を尊重し、準備段階から配慮した結果、スムーズな開所となっている。12月に、統合失調症の利用者が1名、利用開始となった。

2. 支援方針

- (1) 働くことに誇りを持ち、授産活動から、工賃を支給します。
- (2) 障害程度に捉われず、個々にあった作業内容を提供します。
- (3) 自閉傾向、行動障害に対応し、柔軟なプログラムを常に模索します。
- (4) グループホームやご家庭と協力し、幸せな地域生活を目指します。

働くことに拘り、毎日、作業を提供することができた。毎月5000円の工賃を支払うことができた。どうしても支援上、人員が足りない時、グループホームから応援が入り、サービスの質を落とすことなく、サービスを実施している。

3. 今年度の目標

- (1) 個別支援計画に基づき利用者のニーズ・課題に見合ったサービス提供を行う。
- (2) 安定した通所の中から、新たな可能性や選択肢を模索する。
- (3) 個々の活動から集団の活動まで、自閉症の行動特性に捉われず、将来の幸せを見据えた作業内容を検討する。

毎日、安定して通所されていた。自閉症に配慮された空間を利用して、大きなトラブルも発生することなく、半年が終わっている。ただ、新しい作業項目を作る必要もあり、今後の課題となっている。

4. 職員体制

(1) 職員体制

	管理者	サビ管	支援員	看護師	事務員	計
常勤	1	1	4	1 (兼)		7
パート			2		1	3
合計	1	1	6	1 (兼)	1	10

5. 利用者状況及び活動時間、定休日

(1) 障害支援区分 定員 20 名 (10 月 1 日現在 9 名)

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	計
男				2	2	4	9
女							9
合計				2	2	4	9

(2) 活動時間 9 時～16 時

(3) 定休日 土日祝日 年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)

(4) 祝日については、通所日を設ける事もある。

6. 利用者支援

(1) 活動内容

①生産活動

- ・受注作業 (株) 清水ハトメ (サドルの 5 個組・箱入れ等)
- ・受託作業 公園清掃：葛飾区公園課
- ・委託販売 マルエイ (風のマーケット)

②散歩 江戸川の土手を中心にウォーキング。

③農作業

- ・葛飾通勤寮の屋上農園での農作業
- ・マルエイへの納品作業

④行事・余暇活動

- ・グループ外出を行う他、季節行事を行い、生活の幅を広げる。
食事会 (11 月)・忘年会 (12 月)・新年会 (1 月)・お花見 (3 月)
外出行事で焼肉食事会の実施、忘年会として豪華弁当を取り寄せている。
概ね、予定通り実施できた。

7. 健康管理

不調を自覚する事が難しく、更に症状を訴える事が的確でない方が多い為、日常的に日々の様子を観察し、異変や変化に気づけるようにする。

- (1) 健康観察の徹底。
- (2) 職員の健康意識の向上、職員間の連携。
- (3) 定期健康診断の実施。
- (4) 毎月末の体重・血圧測定の実施、その他必要に応じてバイタルチェックを行う。
グループホームと協力しながら、てんかん発作の把握と他害行為の原因追及について、協力体制を取った。体重・血圧測定を毎月実施。健康診断を実施した。

8. 地域交流

活動を通して事業所を認識してもらい、地域の方に障害を持つ方への意識・多様性の理解を高めてもらう。障害者作品展への出品・見学を通して地域交流を図る。

- (1) ボランティアの受け入れ
- (2) 福祉を学ぶ学生への現場実習の機会の提供、受け入れを行う。
- (3) 区内中学校の職場体験実習の受け入れ。

今年度は実施することができなかった。

9. 防災

地震や火災を想定した避難訓練を定期的に行う。非常時に対応出来るように備えておく。また、日頃から整理整頓に努め、避難路を確保する。

地震想定と火災想定、計2回の訓練を実施している。

10. 苦情受付

- (1) 苦情受付責任者、窓口の委員を配置し、利用者の意見を大事に扱う。
- (2) ご家族や利用者からの苦情は口頭でも受け付け、対応を行う。
- (3) 苦情の内容によっては、第三者委員の指導を仰ぎ、円滑な解決を図る。

今年度は、苦情がなかった。

11. リスクマネジメント

定期的に研修やケース検討等を行い、利用者の人権・権利・安全に重きを置いた活動支援・事故発生時の迅速な対応方法・連絡方法を周知し、支援の向上に努める。

送迎のため、送迎車に乗り込む前に、利用者が歩行中の男子小学生の襟首を掴んでしまうという事案が発生した。学校に謝罪、家庭とも調整の上、大きな事案にはならなかったが、一歩間違えると、地域生活の継続が難しくなるケースだった。早急に、対策を講じて、ケース検討を2回実施。送迎時、小学生とは接触しない方法で送迎車に乗っている。

12. 職員研修・会議等

(1) 職員研修

外部研修・内部研修を通して、新たな活動への提議や利用者支援の向上に活かす。

- ① 外部研修
- ② 内部研修 虐待防止研修

内部研修で、虐待防止研修を実施、外部研修では、強度行動障害実践研修に1名参加。

(2) 会議

- ①職員会議（第1木曜日）
- ②個別支援計画検討会議
- ③ ケース会議
- ④ 虐待防止委員会

予定通り実施している。

以上

2023 年度

ドロップ

(居宅介護・移動支援・行動援護)

事業報告

社会福祉法人原町成年寮

1. 事業目的

利用者の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者の立場に立った適切な移動支援・居宅介護行動援護のサービスを提供することを目的とする。

本人主体の基本姿勢で、利用者本人と各事業所と関わることができた。引き続き、ご本人の余暇活動及び生活を支えるため、本人のニーズを把握に努めていく。

2. 運営方針

- ①利用者が自立した社会生活を営むことができるよう総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して支援を行う。
- ②利用者の人権と自己決定を尊重し、利用者に提供するサービス等が不当に隔たることのないよう、公正中立に行う。
- ③区市町村、障害福祉サービス事業を行う者等と連携を図り、地域において必要な社会資源を踏まえたサービスの提供や開発に努める。

各サービス、市区町村の福祉事務所と連携し、困難ケースに対しては情報共有し、支援することができた。

- ④移動支援従事者養成講座の事業の運営の拡大していけるよう体制を整える。

移動支援従事者養成講座は、計3回実施

第1回 6月17日(土)、17日(日)、24日(土) 参加者8名

第2回 10月14日(土)、15日(日)、21日(土) 参加者7名

第3回 2月17日(土)、18日(日)、24日(土) 参加者8名 計23名

参加者を集めることに苦労した。研修参加費が12000円だったが主要因だったと考えている。近隣の行政主導の研修は、3000円と参加費が安かった。来年度は、開催回数と研修参加費用の見直しを検討する。

3. 事業所活動

I. 目標

- ① ヘルパーの確保に努めながら、質の向上が図れるよう人材育成を行う。
- ② 在宅の利用者のニーズに合わせた余暇支援の充実を図れるよう連携を行い、GH利用者の余暇支援については連携を図りながら、必要に応じた移動支援の予定が立てられるよう調整する。
- ③ 居宅介護・行動援護の利用者においてニーズに合わせた支援の構築を図る。
- ④ 移動支援従事者養成講座事業において法人内で連携し、開催に向けて整える。

移動支援従事者養成講座の募集活動で、登録していない法人内の有資格者の確認が

進んだ。研修参加者のヘルパー登録と一緒に、ヘルパーの登録が増えた。ヘルパー向けの研修(7月18日)も実施し、権利擁護と人権に配慮する支援を学んでいる。

II. 実施内容

- ① 利用者からの利用希望に沿って毎月移動支援の予定を立てる
- ② 引継ぎミスを防ぐため、基本書面・メールで行うようにする
- ③ 居宅介護・行動援護の利用者については定期的にモニタリングを行い、支援計画を作成する
- ④ 移動支援従事者養成講座事業を法人内で連携し、開催に向けて拡大出来るよう整備する。

概ね、問題なく実施できた。移動支援従事者養成講座事業では、講師協力及び演習参加利用者の調整で、法人内で連携調整できている。

4. 管理運営

I. 苦情解決

利用者及び家族等から苦情や意見が出やすいような環境を整備し、サービス内容の充実と改善を図る。

2023年度、苦情は入っていない。

*相談・苦情窓口：鶴岡美紀

*第三者委員：渡辺千恵子

*苦情解決責任者：久保玄

II. 法人内委員会（ドロップ・はんもつく共通）

・労働安全委員会：大浦雅子

・虐待防止委員会：鶴岡美紀

・個人情報保護委員会：大浦雅子

III. 研修

外部研修を含め、必要な研修に職員を派遣する

2023年11月11日

アルコール依存症

参加者：鶴岡・大浦

IV. リスクマネジメント

ヒヤリハットを含めてなぜ発生したのか等の検証を行いながら、要因の分析を行い、事故発生時の迅速な対応方法を共有し、支援の向上に努める。

ガイド中の事故が3件あった。2件は転倒事故で、事故を検証し、対策を取っている。高齢化に伴う身体能力の低下が、大きな要因になっているので、今後同様な事故が増えることが予想される。その都度対策を取りながら、事故予防にも配慮して行く。

もう1件は、行動援護2名体制で、昼食買い出し中に、スーパー内に居た男子幼児に蹴る事故が発生。現在、有効的な対策がなく、買い物を自粛している。グループホームと継続的に対策を検討する。

その他、2023年度実績別紙添付

以上

ドロップ移動支援実績 (2023年度)

	4月人数	4月件数	5月人数	5月件数	6月人数	6月件数	7月人数	7月件数	8月人数	8月件数	9月人数	9月件数	10月人数	10月件数	11月人数	11月件数	12月人数	12月件数	1月人数	1月件数	2月人数	2月件数	3月人数	3月件数	合計(人数)	合計(件数)	
昭島市	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2			1	1	6	12	7	9	4	5	
足立区	7	10	8	19	8	18	6	18	8	18	8	14	6	13	5	14	7	10	8	16	6	12	7	9	84	171	
荒川区	5	8	5	8	5	8	4	7	4	7	5	7	4	4	4	4	4	4	3	3	5	5	3	3	51	69	
板橋区	4	12	4	12	4	21	4	21	5	14	5	19	5	17	5	16	5	18	2	3	5	11	4	6	52	170	
江戸川区	7	21	7	37	6	17	6	32	7	32	6	25	5	23	5	23	7	17	5	28	8	27	9	28	81	315	
大田区	2	2	3	3	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	4	3	6	2	3	1	5	2	7	2	6	24	45
豊飾区	55	106	55	123	62	155	61	139	57	147	57	135	53	127	59	132	59	145	56	118	62	131	65	143	701	1,601	
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	11	2	8	2	7	1	5	2	6	17	70	
清瀬市	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			1	1			1	1	9	9	
江東区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
神津島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
小金井市	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	10	10	
国分寺市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
越谷市	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11	12
狛江市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
座間市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
品川区	1	6	0	0	1	11	1	16	1	10	1	8	1	10	1	10	1	11	1	10	1	1	1	1	11	112	
渋谷区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
新宿区	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	2	2	2	2	19	21	
杉並区	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	7	9	
墨田区	4	8	3	12	4	23	2	16	2	12	2	15	4	18	4	14	5	19	5	21	5	21	4	15	44	194	
世田谷区	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	11	11
台東区	0	0	0	0	1	2	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	5	9	13	
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	12	
千代田区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
墨島区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中野区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	2	2	14	16	
西東京	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
練馬区	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	3	1	1	1	2	1	2	1	2	1	1	1	1	7	18	
八王子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東久留米市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東村山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
東大和市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
日野市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
福島市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
福生市	1	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
文京区	1	6	1	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
町田市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
三郷市	1	4	1	4	1	3	1	4	1	4	1	4	1	5	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	1	4	4
瑞穂町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
三鷹市	0	0	1	2	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
港区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
目黒区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
合計	103	199	105	242	110	287	108	280	106	273	103	254	107	260	104	252	108	259	101	233	113	247	119	256	1,287	3,042	

ドロップ【行動支援】実績表(2023年度)

名前	4月回数	5月回数	6月回数	7月回数	8月回数	9月回数	10月回数	11月回数	12月回数	1月回数	2月回数	3月回数	合計
A (件数)	6		4	3	8	5	6	4	6	3	4	3	52
A (時間数)	4.5		3.5	3	7.5	5	6	8	6	3	4	2.5	53
B (件数)	11	11	9	12	12	11	7	13	13	15	12	13	139
B (時間数)	11	18	11	16.5	17	13	7	17.5	17.5	14.5	15.5	20.5	179
C(件数)	5	5	2	6	5	4	1	7	7	5			47
C(時間数)	10	9	3	12	9	5	2	42	14	9			115
D (件数)	9							9	15	13	13	10	69
D(時間数)	34.5							26.5	32	25	29	16	163
E (件数)		2	1				3	5	3	6	5	7	32
E (時間数)		4	2				2.5	23	2.5	5.5	5	5	49.5
F (件数)	17	16	12	18	12	8	9	10	14	10	11	12	149
F (時間数)	21.5	17.5	14.5	23	14	9	10	12.5	17	9.5	11.5	15.5	175.5
G(件数)	2	2	2	5	3	3			2	2	1	1	23
G(時間数)	1	1.5	1.5	2.5	9	2.5			6	1.5	0.5	0.5	26.5
H (件数)	11	13	9	9	14	10	7	15	13	16	10	11	138
H (時間数)	12.5	21.5	10	10	16.5	10	8.5	18.5	15	17	11.5	11	162
I (件数)	10	8	10	10	9	9	10	10	7	11	7	5	106
I (時間数)	26	16	26	22	22	24	26	28	18	24	14	12	258
J(件数)	7	6	4	3	5	5	5	4	7	3	4	5	58
J(時間数)	8	7.5	5.5	3	6	6.5	6	5.5	8	4	5	5	70
K (件数)							26	20	26	16	15	11	114
K (時間数)							29	15.5	25.5	17	14	8	109
L (件数)	4	10	7	9	7	7	4	10	6	5	9	8	86
L (時間数)	6.5	7.5	7	10.5	10	7	8	7	6.5	2.5	12.5	6.5	91.5
M (件数)	30	7	28	21	35	30	1	4	3	4	5	5	173
M (時間数)	31	8.5	27.5	21	35	30	0.5	8	3	4	4.5	3.5	176.5
N (件数)						1	1	1	1	1	1	1	7
N (時間数)						6	6	5.5	6	5	6	6	40.5
	114	82	90	101	113	96	80	112	125	112	98	93	1193
													1669

※2人体制の場合は2人で1回カウント ※1日2回している場合は2回でカウント ※2人体制の時間は2人分カウント
 件数合計 1193
 時間数合計 1669

ドロップ【居宅介護】実績表（2023年度）

居宅通院 ※2人体制の場合は2人で1回カウント ※1日2回している場合は2回でカウント ※2人体制の時間は2人分カウント

名前	4月回数	5月回数	6月回数	7月回数	8月回数	9月回数	10月回数	11月回数	12月回数	1月回数	2月回数	3月回数	合計
O(件数)	1		1		1	1		1	1		1	1	8
O(時間数)	6		6		6	6		6	6		5.5	6	47.5
P(件数)	1	1		1					2		1		7
P(時間数)	1	2	1.5				1.5		3.5		1.5		11
Q(件数)													0
Q(時間数)													0
R(件数)		1			1		2		1		1		6
R(時間数)		4			4		8.5		4		4.5		25
S(件数)		1			1	1			1			1	5
S(時間数)		3			3.5	3			4.5			3	17
T(件数)					1								1
T(時間数)					4								4
U(件数)			1		1	2	1	2	1	2	1	2	14
U(時間数)			8.5		7.5	10	6.5	9.5	3	10	9.5	2.5	77
													41
													181.5
													時間合計

居宅身体介護

名前	4月回数	5月回数	6月回数	7月回数	8月回数	9月回数	10月回数	11月回数	12月回数	1月回数	2月回数	3月回数	合計
V(件数)	6	9	10	11	8	6	6	4	6	7	4	6	83
V(時間数)	10.5	15	15	16.5	12	9	9	6	9	10.5	6	9	127.5
													83
													127.5
													83
													127.5
													時間合計

家事探助

名前	4月回数	5月回数	6月回数	7月回数	8月回数	9月回数	10月回数	11月回数	12月回数	1月回数	2月回数	3月回数	合計
w(件数)	2							3	1	1	2	1	10
w(時間数)	2							2.25	0.75	1.5	1.5	0.75	8.75
													10
													8.75
													10
													8.75
													時間合計

資料 C-9

2023 年度

はんもつく

(自立生活援助)

事業報告

社会福祉法人原町成年寮

1. 事業目的

利用者の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者の立場に立った適切な自立生活援助のサービスを提供することを目的とする。

2. 運営方針

- ①利用者が地域で単身生活の日常生活が営むことができるよう総合的かつ効果的に提供されるよう配慮して支援を行う。
- ②利用者の人権と自己決定を尊重し、利用者に提供するサービス等が不当に隔たることのないよう公正中立に行う。
- ③区市町村、障害福祉サービス事業を行う者等と連携を図り、地域において必要な社会資源を踏まえたサービスの提供や開発に努める。

3. 事業所活動

I. 目標

- ① 地域生活支援員の質の向上に努める。
- ② 利用者のニーズに合わせた支援の充実を図る。
- ③ 関係機関との連携を図りながら地域での単身生活が送れるよう配慮する。

II. 実施内容

- ① 定期的にモニタリングを行い、支援計画を作成する。
- ② 概ね週一回以上、利用者の在宅を訪問し、傾聴できる環境を整える。
- ③ 定期的な巡回訪問や随時の対応により必要な援助を行い、関係機関との連携を図る。

4. 管理運営

I. 苦情解決

利用者及び家族等から苦情や意見が出やすいような環境を整備し、サービス内容の充実と改善を図る。

- *相談・苦情窓口：浅野幸太
- *第三者委員：渡辺千恵子
- *苦情解決責任者：久保玄

II. 法人内委員会（ドロップ・はんもつく共通）

- ・労働安全委員会：大浦雅子
- ・虐待防止委員会：鶴岡美紀
- ・個人情報保護委員会：大浦雅子

III. 研修

外部研修

必要な研修に職員を派遣する

2023 年度利用実績なし。

2023 年度

糸でんわ

(指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業)

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

※実績の報告

2023年度の実績報告は計画相談 310 件、モニタリング 949 件の導入を行っている。月毎の数は下記の表の通りであるが、月毎での件数が異なるため、段取りをしながら、整備を行っている。

計画相談に関しては、利用するサービスに関しての新規利用やサービスの変更・更新となるが、書類作成の不備がないよう把握しながら、計画的に遂行出来るよう努めた。アセスメントについても丁寧な形で整えられるよう心掛け、モニタリングについても利用者を含め、対面での聞き取りを重視する形を整えながら、遂行した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画相談	29	35	46	60	15	17	23	20	10	23	14	16
モニタリング	60	50	100	74	65	81	71	50	158	74	65	82

※社会福祉士等現場実習

社会福祉士等現場実習については下記の通り 5 名の実習生の受け入れを行った。

所属	性別	実習期間	窓口担当
上智大学	男性	令和5年6月6日～7月11日	通勤寮
日本福祉大学	女性	令和5年11月20日～11月25日	通勤寮
日本福祉大学	男性	令和5年11月20日～11月25日	通勤寮
日本社会事業大学	女性	令和6年2月1日～2月10日	通勤寮
東京家政大学	女性	令和6年2月5日～3月11日	糸でんわ

※管理運営

- (1) 指定特定相談事業については、これまでの特定事業所加算・機能強化型の運用や行動障害支援体制加算の他に加算の対象とされているサービス提供時モニタリング加算やサービス担当者会議実施加算の申請で報酬への反映が出来るよう昨年に引き続き運用を行っている。
- (2) 法人内委員会については昨年度までのドロップ、はんもつく共通での役割分担から、糸でんわ単体での業務分担を担うことでの変更となったが、日常的な業務分担を踏まえ、確認できる機会を増やしながら、遂行出来るよう、心掛けた。
- (3) 苦情解決においては第三者委員会・所轄等に報告すべき事項はなかった。

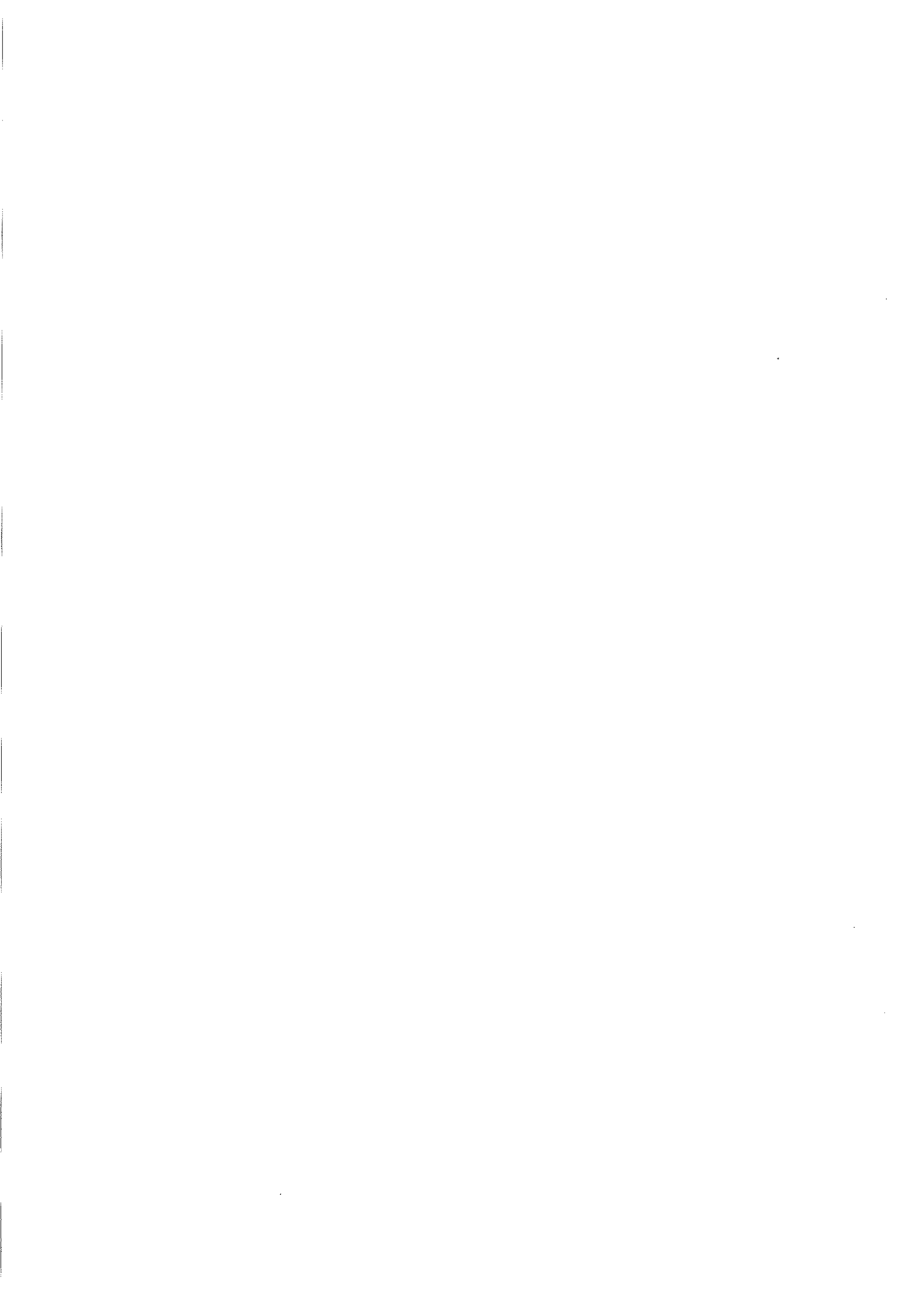
※見学応対

見学希望においては、今年度も法人内事業所の利用を前提とする見学応対等が多くあったことから、利用予定である事業所との連携を図り、随時行う形で調整した。

※研修

今年度の研修参加は下記の通りとなるが、オンデマンド等のリモート研修への参加と事業所運営のための研修（修了）の参加を行った。

- (一) 相談支援・就業支援セミナー（公益財団法人日本知的障害協会 相談支援部会）
講演・メインディスカッション：オンデマンド
- (二) 東京都難治性精神疾患研修（国立精神・神経医療センター）
クロザピン・ECP 基礎研修：オンデマンド
- (三) 葛飾区相談支援専門員研修会（葛飾区主催：サロン）
相談支援者事例検討会等：年間を通して参加
- (四) 相談支援従事者初任者研修 修了（一名）
- (五) 相談支援従事者現任研修 修了（一名）
- (六) 強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践） 修了（二名）
- (七) 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修



2023年度

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

障害福祉サービス多機能型事業所
奥戸福祉館

I 運営全般

今年度は生活介護事業所に1名入所 35名。就労継続支援 B 型事業所に1名入所の27名の合計62名でスタートした。9月末に生活介護から1名退所。生活介護事業所34名、就労継続支援B型事業所27名の61名で活動を行った。

新型コロナウイルス感染対策を引き続き講じてきたが、7月実施の宿泊旅行を機に利用者・職員合計23名が罹患するクラスターに見舞われ対応に追われた。

行事及び余暇支援として宿泊旅行、舞浜ホテルでの忘年会、東京スカイツリーにグループ外出を実施することができた。

福祉館の屋根・外壁改修工事を実施。大規模修繕となった為、「やまもも祭」は中止としている。

毎月2回の理学療法士によるリハビリを継続実施。身体機能について診てもらい必要な利用者に対して看護師を中心にトレーニングを行っている。体の硬さ使い方の悪さが多く、今後けがをしない体づくり維持向上に努めてきた。

作業は清掃洗濯チームとゆずやタッセル、オリーブチームとの連携は、清掃チームの職員がゆず屋の店番やオリーブでの活動に行く機会が増え少しずつ連携ができてきた。

ゆずやタッセルでの活動は実習という形で多くの利用者が体験することができた。実習という短期間だけでなく日常の活動でも多くの利用者がかかわれるようにしていきたい。

重度高齢化対策として、グループホーム清掃活動の受託縮小、施設外就労先のリハビリケアかつしか及びスマイルホーム清掃の受託を打ち切り軽作業を新たな活動として行う事とした。パン製造・販売においても一部保育園の受託を取りやめ余暇支援等の時間を増やした。

福祉館内部改修について新規事業・重度高齢化対策委員会を中心として検討。高齢利用者を中心とした転倒や疾病による事故事案が多数発生している状況下の中、ご家族の意向も踏まえつつ今後、様々な利用者ニーズ課題を見据え対応方針を決定し、シャイン・Craft・奥戸福祉館の事業所間連携含め法人プロジェクトとして進めていく。

福祉館の理念とも言える「ビジョン」「ミッション」「クレド」を全職員で討議し委員会を中心として検討し策定。利用者支援の根幹を共有できた。

II 利用者支援

(1) 【就労継続支援 B 型事業所 支援方針】

〈パン製造販売チーム〉

年々深刻化する利用者の重度高齢化及び肥満対策のため、平日や休日の販売会を含めたスケジュールの見直しをして運動や余暇的活動を積極的に実施した。

課題対応のため、年度初旬、一部受託先保育園契約を打ち切り余暇活動への参加や高齢者作品展への出品により、個々の意向に沿ったやりがいのある活動の提案をすることができた。

製パン作業においては可能な限りお客様のご要望に利用者と共に応えていけるように、製造・販売ともに一丸となって日々の作業に取り組んだ一年であった。南葛SCのホーム

ゲームでの販売会に積極的に出店し、南葛SC関係者の皆様はもちろんのこと、地域の方々の支えもあってナンカツバーガーの知名度が維持されている事を感じた。

普段の生活や健康面に不安を抱える利用者からは特に丁寧に話を聞いたり、ご家庭や寮職員との連絡を密にとるように心掛けた。必要があれば糸でんわ（計画相談）ご家族と直接対話する機会を設けた。今後はより幅広いニーズに応える支援力を養い、ご家族や寮職員との強固な関係性構築と地域の関係機関との連携にアプローチしていきたい。

地域交流はコロナ禍のため実施できなかったが、こども食堂への寄付は可能な範囲で実施した。パンのパンフレットを作成したが配布できなかった。来年度も食品を扱うことへの責任を持ち、提供先のお客様への信頼に応えるよう利用者主体の本道を踏まえ努めていく。

売上： 1, 194万円

(内訳) 保育園： 343万円

休日販売会： 54万円

他： 797万円

(2) 【生活介護事業所 支援方針】

〈清掃チーム〉

作業活動の中で定期的な運動など身体活動量を増やし、心身ともに健康な状態を維持し、利用者一人ひとりのウェルビーイング（幸福度）を向上させてきた。課題が見つかった利用者には、理学療法士のアドバイスを受けながら作業の空き時間や、別途時間を設け筋力維持・体力向上に努めた。

毎週金曜午後に行っている余暇の時間では「ダンス」など身体活動量の増加を積極的に取り入れてきた。映画鑑賞や習字教室にも多数の希望者が参加する事が出来てリラックスした時間の提供や書道においては個々の個性を活かした芸術的な作品ができた。

作業面では法人グループホーム清掃を中心に、館内清掃・洗濯、レンタルタオル、アルミ缶リサイクルなど地域活動の促進と利用者一人ひとりにあった作業を提供し、やりがいを感じていただくと共に多様性に応える事が出来た。

スマイルホーム西井堀、リハビリケアかつしかに関しては、今年度より作業活動を中止している。自閉の方々に特化した事業所「アンジュ」との連携も今年度はおこなえなかった。

高齢の利用者に対し「ライフステージ表」を作成した。アセスメント（評価）を改めてする事が出来、理学療法士と情報交換に用い、今後の生活課題を検討・予見していく事に活用する事が出来た。作業時間・作業提供のあり方なども、その都度、対応をおこない、福祉館で過ごされる時間が意義あるものになるよう働きかけてきた。

ウェルピアで隔月おこなわれた発送ボランティアに参加する事が出来た。タスカルカードを再構築し、一日の振り返りをおこなう事は出来なかった。学習活動はiPadを使用し、金銭に関する勉強をおこなった。今年度は創作活動も多々おこない、ウェルピアの障害者

作品展に出展する事が出来た。

○売り上げ	507万円
・館内清掃 洗濯	161万円
・生活寮清掃 (お墓清掃含む)	220万円
・施設外就労	11万円
・かわら版	30万円
・レンタルタオル	42万円
・アルミ缶リサイクル	30万円
・その他	13万円

〈ゆず屋・タッセル・オリーブチーム〉

葛飾区や立石図書館の方針に則り綿密な連携を心掛けつつ、福祉事業所が運営する独自の喫茶店及びリサイクル事業のカラーを模索し、レイアウト変更等、お客様に興味と関心を持っていただける空間づくりに努めてきた。

利用者がレジ打ち等、接客に携われる機会を増やす事で必然的に社会ルールを学び、定期的実施したマナー講座も良い啓発となり有益な取り組みが行えた。HACCP に沿った食材の管理、衛生に心がけ、利用者の日々の体調管理も行い、飲食店としての安心・安全を提供できた。

オリーブチームにおいては前年度まで福祉館で活動していたメンバーも集結し、寄付品の値付けや仕分けに従事。また、「OKUDO アートクラブ」と銘打ち、絵や粘土といった個性を活かした芸術作品を生み出す活動を新たに創設した。利用者のインスピレーションが発揮され、笑顔でいきいきと有意義な活動となっている。

○売り上げ	1,180万円
・ゆず屋	909万円
・タッセル	271万円

2 余暇支援

3月各グループに分かれ東京スカイツリー外出を実施。毎週金曜日に行われている余暇活動も継続している。

3 就労援助

葛飾区就労支援事業 (葛飾区補助事業)

Carft と連携し、情報交換を行った。一般企業就職を希望している利用者に対して、まずは通所の安定を目標として希望実現を目指し長期的視点で支援していく。

4 保健

1. 健康管理

- ① 毎月体重・血圧測定を行い毎月の変動を確認。血圧の上昇が持続している方は内科相談時に嘱託医に相談・館内にて血圧測定を開始し、かかりつけ医受診時に血圧測定表を持参してもらった。
各個人の体重表・BMI表を10月に各自に配布し、食生活・運動習慣を見直して頂くよう投げかけた。
- ② 定期健康診断の実施。定期健康診断の結果については各家庭・寮へ配布し再検査が必要な利用者に関しては検査を受けるよう促した。
- ③ 歯科検診：原田歯科往診
利用者全員が対象。齲歯・歯肉の状態・磨き残しを診察してもらい、結果を各家庭・寮へ連絡。
歯科受診が必要な利用者には受診を促した。
- ④ 歯磨き指導：毎年2回原田歯科往診にて利用者全員を対象に歯磨き指導しているが、今年度は新型コロナウイルス感染流行の影響により飛沫のリスクを考慮し中止。
代わりに原田歯科からの歯磨き指導の動画を利用者に視聴してもらった。
- ⑤ 内科相談：毎月第2月曜日立石医院（塚原 Dr）往診
毎月12～14名の利用者を対象に実施。血圧の変動や健康診断の結果、症状、日頃の様子から利用者本人や職員が気になることなどを相談し、生活指導や通院を勧めることで病気の早期発見や悪化を防ぎ、治療を早期に開始できるよう努めた。
- ⑥ インフルエンザ予防接種（11月13日）：立石医院往診
希望利用者に対し実施。
- ⑦ 新型コロナウイルス感染の早期発見・予防のため通勤前・出勤時に体温測定してもらい発熱の有無を確認。体調不良者は自宅療養や、館内にて抗原検査施行あるいは通院するよう各家庭や寮へ協力してもらった。
- ⑧ 新型コロナウイルスワクチン接種
6月10日 希望利用者に対し実施。
- ⑨ 就労継続支援B型利用者対象に訪問介護を実施した。

2. 機能訓練：柿澤PT

PTに、機能訓練が必要な利用者进行评估・看護師による機能訓練内容を考案してもらい、その内容に沿って（15名）週2～3回機能訓練を実施し、筋力の強化・維持に努めた。

3. 衛生管理

- ① 検便による細菌検査の実施（利用者・職員対象）
- ② パン製造・販売従事者、タッセル従事者は月1回
- ③ 上記以外の方は年1回

4. 職員の健康管理

- ① 10月～11月にかけて葛飾健診センターにて健康診断の実施。
- ② 利用者同様、出勤前または出勤時に体温測定をするよう促した。
- ③ 体調不良者に対して早期抗原検査を施行し、新型コロナウイルス感染の早期発見・拡大防止に努めた。

5 全館行事

7月20・21日に一泊二日の日光鬼怒川への宿泊旅行と年末に舞浜のホテルで忘年会を行うことができた。他事業所職員やボランティアにも協力してもらい一同を介する行事を皆で楽しむ事ができた。

また、年明けには新春コンサートを外部演奏依頼。サクソ演奏会を利用者・職員だけでなく希望されるご家族にも来館していただき好評だった。

6 地域交流

【地域交流】

月1回区役所でフラワーメリーゴーランドという花がらつきや花の植え替え作業のボランティアを利用者7～8名職員2名で行った。ウエルピアでの通信発送ボランティアの活動を奇数月利用者2名と職員1名で行った。

ボランティア活動として利用者が地域に貢献でき毎回参加することをとても楽しみにしている。

【ボランティアの受け入れ】

新型コロナウイルス対策及び福祉館外壁改修工事に伴い「やまもも祭」が中止になってしまいボランティア受け入れは出来なかったが、宿泊旅行に関して他法人職員にボランティアとして同行してもらった。利用者保安等で献身的に協力していただき非常に有益だった。

7 利用者自治会

忘年会や還暦、歓送迎会等、利用者全体に関わる行事に関して役員を中心に確認。職員も支援にあたりながら活動を行う事が出来ている。

8 家庭との連携

連絡帳を活用して家族や寮との連携を図った。必要に応じて電話連絡や面談グループホームの利用者は合同支援会議を行った。

定例家族連絡会はコロナ感染防止のため行わなかった。4月、6月に家族連絡会を開催した。事業計画および事業報告及び今後の方針について伝えている。

9 リスクマネジメント

- ・昼休憩中、ロビー歩行中利用者同士が接触を避けるためよけた際に清掃用具につまずき転倒。通院を行い股関節骨折と判明。人工股関節置換術を行う事となり現在もリハビリ病院入院中。
- ・活動中、軽作業の部材カゴを職員制止はしたが持ち上げてしまい、尻もちをつく転倒。その後通常活動を行っていたがグループホームにて状態悪化。通院にて頸椎圧迫骨折と診断され現在もリハビリ病院入院中。
- ・レンタルタオル作業中、アイロン作業を行っていて左手火傷。本人からの訴えもなくアイロン接触による火傷ではあるが要因は不明。グループホームにて判明し火傷の応急処置はするが、翌日看護師と通院処置。
- ・閉館時、セコム機械警備と玄関横施錠のみで自動ドアの未施錠が発生。
- ・朝送迎時に運転手不在に気づかず45分遅延。
- ・パンチーム関連で7件の事故、3件のヒヤリハットが発生。
- ・自動車事故被害に見舞われる事案もおきている。

10 広報委員

毎年発行している奥戸福祉館全体の活動を伝えるご家庭向けの通信は発行できなかった。原町かわら版は法人の広報委員会と協力し、編集作業・印刷・封入発送を行い、年4回の発行をした。

11 防災安全管理

防災安全管理

- (1) 訓練時は本田消防署へ自衛消防通知書を届け出のうえ実施した。
- (2)

実施日	種別	訓練内容
5月30日	総合訓練	地震発生による避難、及び通報訓練
10月25日	避難訓練	火災発生による避難、及び通報訓練
2月29日	避難訓練	自衛消防訓練の動画視聴（職員のみ）

- (3) 葛飾区地域防災無線の定期通信訓練を行った。
- (4) 火気施錠点検を確実に実施した。
- (5) 災害用伝言ダイヤルの実施（毎月1日、15日）
- (6) 立石図書館の避難訓練に参加
- (7) 上級救命講習3名受講した。

12 苦情解決事業

・地域関係の苦情 ゆず屋関係3件、タッセルにおいて2件、店員の接客態度が悪い等の苦情が寄せられる。その都度真摯に受け止め再発予防の対応策を講じて対処した。

Ⅲ 管理運営

1 職員研修

(1)外部研修・講習会参加実績

研修・講習会・会議名	開催日・場所	参加者
全国施設長会	7/13・14 東京国際フォーラム	佐久間
東京都障害者虐待防止研修	7/25・9/1 リモート	児山
自閉症の方々と関わる基本研修	7/19	横山
サービス管理責任者 基礎研修	8/3・4、7オンデマンド	井澤
〃	17・18会場	〃
食品衛生責任者	8/	小野満
食品衛生講習会	9/12テクノプラザ	柿木
かつしか社会福祉士会 定例会	9/21金町地区センター	井澤
ストレングスを学ぼう	9/30	小野満・工藤
安全運転管理者講習	9/30飯田橋セントラルプラザ	佐久間
法人内研修	11/22通勤寮	佐久間、井澤
防火防災管理者研修	10/24 リモート	
認知症または認知症の疑いのある知的障害者への支援の課題	2/19リモート	小野満、工藤
上級救命講習	11/10本田消防署	丸山、小野満、林
ファシリテーター養成講座	11/24	小野満
福祉機器展	3/12東京ビックサイト	丸山、井澤
〃	3/13 〃	佐久間、伊藤
〃	3/14 〃	工藤

事業報告

令和5年度

社会福祉法人原町成年寮

Craft (クラフト)

全体

Craft 事業開始から 7 年が経過した。就労継続支援 B 型事業所の利用者数 21 名、生活介護事業所の利用者数 9 名、総勢 30 名となった。

引き続き社会情勢の経済影響により原材料・設備維持等の価格高騰があり、パンの価格見直しや経費削減対策を適宜講じた。

店舗営業の時間や販売方法の変更、職員会議の開催方法等の見直し、休日の余暇支援を行い、事業所の業務軽減を考慮しつつ、現状でできるところで収益につなげられるよう努力した。

感染拡大防止に努めながら活動を提供したが、年明けにコロナウィルス感染した方がいたため余暇支援を中止することもあった。余暇支援は、利用者に仕事の合間のリフレッシュや利用者間のコミュニケーションの場として提供できた。

作業については、タスカルカードを運用と振り返りを継続して取り入れていくことで、利用者の気持ちの把握や利用者自身が自分の気持ちや考えに気づく場として有効であった。適宜行ってきた教養講座、筋力向上やリラクゼーションを目的としたヨガなどは、心豊かに楽しく過ごせる必要な知識を学ぶ取り組みとなった。また利用者同士の交流を意識したゲームを企画した。来年度も仕事だけではなく、楽しく活動に参加をする仕組みを考えていく。

一般企業就労については、1 名がトライアル雇用を経て就労に結びつくことができた。昨年度就労した利用者については、職場訪問や定期的な面談をする事により就労定着に結びついている。そのうち 1 名は原町成年寮就労定着支援センターへ引き継いだ。この先も安定した就労につながるよう、来年度就労定着支援事業を立ち上げることにした。

利用者 2 名に対し、家庭や糸でんわと連携し、利用者ニーズに合わせた活動提供をし、週 1～2 回の通所につなげることが出来た。1 名は現在も長期入院中である。

今年度も綾瀬中学校職場体験の生徒や受け入れ、地域交流を図れた。

事故案件では、利用者 1 名が体育館の階段の手すりの間から転倒してしまった。利用者は大事に至らなかったが、事業所としての事故対策を確立、事故防止のための手すり補強工事を検討した。(令和 6 年度 4 月完成)

来年度より奥戸福祉館・シャインとの事業連携を行う。奥戸福祉館の事業展開と改修工事に伴い、奥戸福祉館のパン事業をクラフトにて引き継ぐことになった。

2. 利用者支援重点目標

今年度もタスカルカードを軸に作業の「見える化」をし、作業の進捗状況や皆で協力し合う環境づくりで、自己肯定感を高められる様にした。

タスカルカード運営方法をより利用者にわかりやすく提示することができ、利用者のモチベーションを維持するよう努めた。今日の自分はどれくらい作業が出来るか、時間を意識し、自分の許容範囲を考えながら、作業について責任を持ち一人一人が取り組

めていた。「相談カード」を活用し、自分の体調や気持ちについての相談を利用者自ら伝えることができるようになった。月 1 回の表彰を行うことで、達成感や明日から前向きに取り組む姿勢や意欲につながった。終礼では、引き続き美点凝視をしたことを伝え合い、お互いの存在を認め合う環境を設けた。

月 1 回職員がテーマに沿った講座を行い、日々の仕事の心構えや活かせるマナースキルをお伝えし、実践できるよう取り組んだ。今年は外部講師によるビジネスマナー講座を実施することができなかった。

所属しているチームで話し合い、月の目標・個別支援計画を反映した目標に向けて、毎日に意識して取り組めるように工夫を行った。

振り返りの時間では、利用者との会話を大切にし気持ちの把握に務め、利用者は自分のことを話せる場として認識し相談をすることができつつある。

利用者の健康維持・リラクゼーションや協調性を養う為に行う月 1 回のヨガ、ミュージック・ケアの時間では、季節の行事を企画したり、利用者からのやりたいことを募りダンスをしたり、積極的な行動もみられた。参加希望しない利用者も数名おり、その場合は作業提供をした。毎日のラジオ体操も、楽しく取り入れられるようスタンプカードに工夫をした。

利用者関係を配慮のため、チーム分けをして落ち着いて活動できるよう環境を整えた。

3. 収支報告

年間売上目標：14,500,000円

年間売上：10,461,463円

(達成率：72.1%)

4. 就労継続支援B型事業所

ベーカリーカフェ Viser Polaire (ヴィゼポレール) の運営と清掃を通して、利用者一人ひとりが「できる」と実感できるものを利用者・職員で共有し、それを実践することで

自己肯定感をたかめ、作業意欲の向上に努めることができた。今後も、利用者が自立した作業が確立できるよう、できることを見つけ、利用者一人ひとりの可能性を引き立てるよう支援していく。

一般就労希望者には、ハローワークや葛飾区就労支援センターからの情報提供、区役所実習の提供をし、トライアル雇用を経て就労者 1 名を送り出すことができた。また健康への知識やマナー習得のための講座を開催し、作業で活かすことができた。

職員は、会議を通して業務の見える化・言語化を図り共通認識をもって業務遂行に努める。

4-1. 喫茶・販売

年間売上目標：12,000,000円

年間売上：8,877,167円 (達成率：74%)

内訳：パン：8,529,724円 喫茶：347,443円

イートイン営業の中止によるお客様ニーズとの乖離だったため、営業時間の見直しを図り、開店時間を30分早め少しでもお客様のニーズに応えるように10:30からの開店に変更した。体制を整え、10月中旬よりイートイン再開した。

GWは5/2～3に6周年記念感謝祭を実施し、数量限定パンセット販売等を企画し多くのお客様にお越しいただけた。じゃんけん大会などテラスを使用したイベントや季節ごとにパンセットやランチBOX等の販売を実施した。昨年に引き続き、月1回、葛飾元気野菜の直売所から仕入れた野菜の販売も行い、集客を図った。地域の方にも認知していただき、人気イベントになっている。

外部のイベントは、7件出店した。『Jaぱんカップ2024』で出品した『モワルーなカレーパン』が第3位に輝き、販売イベントでは約13万円の売り上げを記録した。

全国のお客様に当店を知ってもらうために、『rebake』のサイトにてパンセットの通信販売を昨年に引き続き行った。スタンダードなお食事パンセットとクリスマスシーズンにシュトーレンセットを販売したが、ロスパン販売につなげることができず、昨年より発送数は伸び悩んでしまった。

広報活動では、2023年12月に「リンネル(宝島社)」に掲載、SNSのフォロワー数が伸びた。日々の営業や作業内容をSNSの投稿とポスティング等をし、幅広い年齢層のお客様に認知・ご来店頂けるように努めた。

作業面では、引き続きタスカルカードを活用し、作業に見通しを立てるとともに、利用者自らやるべき作業を確認して、袋詰めや接客や作業準備等の仕事に取り組んでもらった。製造と喫茶の兼務をした利用者については、パンについてのさらなる知識を深め、接客に生かすことができた。また自分で作る商品が売れる喜びをより一層感じながら販売することができた。

目標決めの際や日々の作業の中で、利用者とコミュニケーションを交わし、接客や作業内容についての話し合いをする機会も多かった。接客用語や接客マナーに関しても、朝礼や作業内で適宜利用者へ伝え、全体的に意識して取り組むことができた。

事故報告は、店舗自動ドア未施錠、パンセット価格についてお客様からの問い合わせがあり、それぞれ対策を講じた。

店舗イベント

4/1(土)：エープリールフル

4/4(火)：あんぱんの日

4/4(火)～4/8(土)：イースターフェア

5/2(火)～5/3(水):6周年記念感謝祭
5/10(火)～5/13(土):母の日フェア
6/3(土):クルミの日
6/13(火)～6/17(土):父の日フェア*雨の日ポイント2倍デー
7/1(土)～7/7(金):七夕くじ引き大会
7/25(火)～8/5(土):沖縄フェア
9/14(木)～9/30(土):やっぱり食欲の秋だねフェア
9/30(土):じゃんけん大会
10/24(火)～10/31(火):ハロウィンフェア *10/17(火)～イートイン再開
11/7(火)～11/25(土):チーズフェア
12/12(火)～12/23(土):クリスマスフェア
1/5(金)1/6(土):新春初売り福袋
1/19(金)～2/16(金):かつしかJaパンカップ2024
2/6(火)～2/14(水):バレンタインフェア
3/5(火)～3/14(木):ホワイトデーフェア
3/21(木)～3/30(土):イースターフェア

元気野菜販売日

4/15(土)、5/20(土)、6/10(土)、7/15(土)、8/19(土)、9/16(土)、10/21(土)、
11/11(土)、11/25(土)、12/9(土)、1/27(土)、2/18(土)、3/9(土)

外部販売

8/26(土):東堀切町会親子ふれあい祭り(売上:33,890円)
10/2(日):「ああ、生まれてきてよかった展」(売上:44,033円)
10/15(日):東京拘置所矯正展(売上48,375円)
10/20(木):ハッピースマイルフェスタ in 霞ヶ関(売上:27,673円)
11/2(木):くすのき祭(売上:13,658円)
11/25(土):かつくら祭(売上:46,303円)
2/17(土):Jaぱんカップ2024 金町駅前団地広場販売会(売上:135,348円)
2/23(木祝):四つ木斎場「地域感謝の集い」(売上:39,620円)

4-2. パン製造

本年度の目標としていたサンドイッチメニューの充実化を図り、ランチBOXのテイクアウトメニューやイベントでの販売を行う事ができた。利用者支援では新たな利用者メンバーも加わり、清掃チームやSPチーム、喫茶チームの垣根を乗り越えて体制を整えパ

ン製造作業を提供できた。そのため、分かりやすい様に写真やイラストを使った簡略化した見やすい作業マニュアルを作成して支援することができた。

目標のひとつとして掲げていた月1回のイベントを開催することができた。なかでも8月に開催した沖縄フェアや10月中旬から開催したハロウィンイベントを盛況に行い集客につなげることができた。

その他に例年参加しているJaぱんカップで今年度のテーマのカレーパンを職員全員でアイデアを出し合い、最終日の販売会で商品を完売することができた。Craft利用者・職員全員一丸となり3位入賞を果たしその後の集客につなげた。それ以外の地域の販売会にも積極的に参加し売上に大きく貢献することができた。

フードロスの削減として子ども食堂と連携し常時提供を行う事ができたが冷凍パンを使用した通販サイトrebakeでの新商品開発は来年度の課題とする。

今年度もシニフィアンシニフィエの志賀シェフ監修のもと、豆乳ブレッドやミルクパン等の新たなパンに挑戦してラインナップを充実し商品化した。またクリスマスメニューのパネットーネの技術習得に昨年に引き続き取り組み、来年度のクリスマスシーズンに商品化できるよう様々な試行錯誤の上、指導して頂いた。

衛生管理において、基本的な衛生管理を徹底して商品の異物混入等の食品事故0件を達成した。また職員が衛生研修に参加した知識をその他の職員間で共有し現場に反映することができた。

4-3. 清掃活動、受注作業

年間売上目標：1,750,000円

年間売上：1,189,122円 (達成率：68%)

「利用者が活動（仕事）の中で、職員とポジティブな行動を共有することで、前向きな考え方や行動につなげていく」

今年度も新たに加わった利用者も含め、チーム編成や当番表の改訂を行いながら、新しい仕事へチャレンジし、できた事を共有し合えた。

「やりたい」「やってみたい」という意欲を尊重し、協力の仕事も積極的におこなってもらうことで、職員とも振り返りの中で「いいね」を送ることができた。そしてモチベーションに繋がった。

引き続きタスカルカードの仕組みや清掃方法の仕組みをブラッシュアップしたことで、利用者が活動しやすい環境設定を心がけた。清掃方法においては各々で手順の認識に相違があった為来年度に向けて職員間での共有を実施し、利用者への作業向上を目指していく。また、作業量の充足が維持出来る様に、軽作業の充実化、各利用者の体調や状態に合わせて作業提供等実施していく。

次年度は、利用者と職員がポジティブな行動を共有することで、前向きな考え方や行動につなげていく事、利用者同士の交流場面を増やし、楽しく活動しながら活動の意義

や仕事の意義を見出せる様にする事を目指していく。また売上確保として、新規の受注作業の獲得や既存の受注作業の受注量増加を図っていく。

5. 生活介護事業所

年間売上目標：600,000円

年間売上：396,374円 (達成率66%)

「はたらく」ことに主眼を置くという目標に取り組む事で、B型事業所の利用者と変わらない活動を行う事が出来た。心身の健康を維持し、元気に楽しく活動(仕事)が出来る様に支援を行った。

自身の「できる」を増やしていけるよう、新しい仕事にも前向きに取り組み、喫茶やパンの実習と、その後もポイントで活動に入る等、仕事の幅を広げる活動提供が実施できた。

個別支援計画の支援内容をベースに『出来た事』『取り組めた事』に対し、「いいね!」を伝え、その時々自身の力を発揮する事、活動を通して社会参加が出来る事、今まで培ってきた自立の力を継続していく事を目指して取り組みを行った。

5-1. 生産活動：館内清掃・軽作業・ポスティング・配達業務

一人ひとりのニーズや体調の状況に応じ、活動内容を配慮し、就労継続支援B型事業所の利用者と清掃場所を分担する事により、清掃班全体でひとつのチームとして活動が出来た。

軽作業や配達業務、アート活動の面では、率先して取り組む利用者もみられ、利用者が主体的に作業を行う事が出来ていた。活動に対して前向きで取り組む姿もみられ、若い世代の利用者への刺激となった。

今後も一人ひとりのニーズや体調に考慮して、身体機能の維持を図り、充実した人生を送れる様に支援をしていく。

今年度より(株)ニューモアが主催する月一回の定例会に、パートナー施設として参加。活動内容の共有・報告を聞く機会を頂き、利用者への提供の参考となった。

活動の際には季節に向けたアートデザインや、自身の得意分野の絵を自由な発想で描いてもらったりと充実した活動時間となった。クッキーやサコッシュやピンバッジ、歯ブラシ等のデザインに採用、商品となり、また利用者にとって何よりの喜びや意欲の向上にも繋がった。

1月、パートナー施設である「しあわせのたね」のアトリエ見学。1人1人が活躍できる配慮された空間作りをみて、今後の環境設定の参考となった。

利用者の描くアートをより多くの人にも見てもらえるよう、SNSでの発信や店舗への装飾を今後実施していき、利用者のモチベーションへと繋げていきたい。

6. 行事計画

ヨガについて、今年度も三好先生に依頼し、毎月1～2回ほどを実施。三好先生とも話し合いながら、季節を感じながらみんなでより楽しむ機会にすることを目的に、お花見ヨガ、夏祭りヨガ、ハロウィンヨガ、クリスマスヨガを実施。

東堀切町会「親子ふれあい祭り」に参加したり、4年ぶりにかつくら祭を実施したりした。地域交流の場にするのを目的に実施した。

夏休みと冬休みには余暇支援を実施。アリオ亀有で映画鑑賞やサイゼリアで昼食、体育館でボールなど使った運動会を行った。外出行事では、店舗営業日の兼ね合いから2グループに分かれて浅草外出を実施した。どの企画も普段の活動では見られない利用者の様子を見ることができた。

またカラオケフェスやペットボトルボーリングの他にもプログラムや香りを楽しむお茶会等、利用者間交流を深めるためやリラックスをしてもらうことを目的に実施した。

今年度はコロナ渦の影響も少なくなり、昨年度よりも多くの行事を実施することができた。どの行事やプログラムでも利用者からは楽しかった、またやりたいといった声が上がった。来年度もより利用者が楽しく参加できる行事やプログラムの企画をしていく。

実施行事

- 4月12日：お花見ヨガ
- 5月26日：Craft フェス
- 7月28日：第1回ペットボトルボーリング大会
- 8月8日、9日、10日：夏休みを利用した余暇支援
(カラオケ大会、コーヒーゼリー作りと映画鑑賞、Craft 運動会、サイゼリアへ夕食)
- 8月24日：夏祭りヨガ
- 8月26日：東堀切町会「親子ふれあい祭り」
- 10月20日：ハロウィンヨガ
- 11月17日：第2回ペットボトルボーリング大会
- 11月25日：かつくら祭
- 12月6日：クリスマスヨガ
- 12月27日：Craft 納会
- 12月28日：アリオ亀有へ行き映画鑑賞
- 1月10日、12日：葛飾区ふれあいレクリエーション農園ねぎ収穫
- 1月30日～2月6日：香りを楽しむお茶会
- 2月15日：プログラム・わたしの紹介カードビンゴゲーム
- 3月8日：プログラム・スリーヒントゲーム
- 3月7日、14日：浅草へ外出行事

7. 一般企業就労支援活動

今年度も引き続き、アフターフォローを実施している利用者5名の定着支援をおこない、その内の1名の利用者に関しては、5月末に退職となりアフターフォローは終了となった。利用者1名は、5月に原町成年寮就労定着支援センターに引き継いだ。

今年度も葛飾区障害者就労支援センター主催の『区役所実習』を活用し、外部実習を経験していく場を設定した。

利用者1名は、葛飾区障害者就労支援センターからの求人情報で就職に繋がったケースがあった。就労先での実習・トライアル雇用を活用して本採用に結びつき、就労先との信頼関係を築く事も出来た。

フォレストの就労担当職員との情報交換も継続して行い、就労支援・定着支援に関する情報交換や、求人情報の共有等、今年度も有益な連携が図れ、フォレストからの情報提供から会社見学を実施している。

実績

4月 アフターフォロー ・職場訪問実施 5名	5月 就労支援 ・企業見学参加 4名 ・ハローワーク求人情報収集 1名 アフターフォロー ・職場訪問実施 1名 ・本人面談実施 2名
6月 就労支援 ・区役所実習参加 1名 ・企業実習参加 1名 アフターフォロー ・職場訪問実施 3名 ・ケース会議実施 1名	7月 就労支援 ・企業実習参加 1名
8月 就労支援 ・企業実習参加 1名 ・就職決定(トライアル雇用) 1名 アフターフォロー ・職場訪問実施 2名	9月 就労支援 ・区役所実習参加 2名 アフターフォロー ・職場訪問実施 1名 ・本人面談実施 1名
10月 就労支援 ・区役所実習参加 1名 アフターフォロー	11月 就労支援 ・就職決定(本採用) 1名 アフターフォロー

<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場訪問実施 2名 ・ 本人面談実施 2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場訪問実施 1名
12月 アフターフォロー <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場訪問実施 4名 ・ 本人面談実施 2名 ・ ケース会議実施 1名 	1月 アフターフォロー <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人面談実施 3名
2月 就労支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 区役所実習参加 1名 アフターフォロー ・ 職場訪問実施 1名 	3月 アフターフォロー <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場訪問実施 2名 ・ 本人面談実施 3名

次年度も1名の就労者を出す事を目標とし、就労継続が出来る力を身に付けられる支援を行っていく。また Craft より就労した利用者については、今後も安定した企業就労が出来るように就労定着支援事業所を立ち上げ、就労支援を継続していく。

8. 生活支援

朝礼で接客用語・おあしすの唱和を基礎に作業中でも挨拶や返事を意識できるようにおこなった。身だしなみを整えるなどのビジネスマナー習得の支援を行った。

家庭やグループホームと連携し、利用者の健康や生活状況の把握を行っていった。

9. 健康管理

今年度も、ご家庭・GH、訪問看護事業所との連携をとり健康管理と疾病予防に努めた。体調不良の訴えのある者に対しては検温、血圧を計り、必要と判断した際には本人の了承を得た後、COVID-19 簡易キットで検査を行い、通院につなげた。

災害時用に利用者全員3日分の薬を入れ替え（9月）保管した。頓用薬（頭痛時・腹痛時・胃薬等）・臨時処方（抗生剤）の薬など必要に応じて預かり管理、点眼薬の介助も実施。食品従事者は月1回の検便を利用者・職員全員実施し、問題となる菌が検出されることはなかった。

7月の健康診断は全員受けることが出来、定期的に通院をしている利用者にはかかりつけ医に結果を報告してもらった。また、12月のインフルエンザ予防接種は希望者のみ実施し、その後のインフルエンザ感染者はいなかった。

GH や家庭から定期通院の報告を受けたり、毎朝の体調チェックを行い、現状の体調を把握する事で、必要に応じて作業に配慮しながら支援を行うことが出来た。

糖尿病治療中の利用者に対しては面談の時などに、食事や間食の状況を聞き取り、簡単なアドバイスをを行った。

ラジオ体操、ヨガ等、無理のない範囲で体を動かす機会を設け、健康増進を図った。

怪我等の危険だと考えられる場所には赤ポールを置いたり、環境整備や確認、職員の意識づけを徹底した。

利用者のクラフト活動時間内において、体調不良者、怪我等が発生した場合には GH や自宅に通院のお願いをするだけでなく、クラフト職員でも通院同行が行えるようにマニュアルを作成した。

10. 家族・グループホームとの連携

利用者の夢や希望を実現するためには家族やグループホーム職員との連携が不可欠である。互いに連絡を取り合える良好な関係を築く事に努め、日々の連絡帳の活用、必要に応じて電話連絡や、ケース会議、個別支援計画面談の同席等、情報共有や支援の統一を行った。

11. 防災計画

毎月防火状況自主点検表の作成を行い、令和5年7月と令和6年2月に避難訓練を実施。また、葛飾通勤寮・奏かつしか・Craft 職員合同の防災委員会を実施し、BCP 計画修正・消防計画修正を行い、前年度に続いて防災備蓄品の整備を行った。また、令和6年3月に事業所合同で職員向けの防災訓練を実施。本田消防署南綾瀬出張所の消防士の方に来て頂き、消火器訓練及び通報訓練を実施した。

次年度に向けては、避難訓練の際、引き続き訓練の流れや訓練時の各職員の役割分担を共有し、有事に即した訓練が実施出来る様にする。各自が場面に応じた対応が出来る訓練を実施する事を目指す。

想定場面：①通所時 ②活動中 ③帰宅・帰寮時 ④帰宅困難時

防災活動

9/8(木) : 防災委員会開催

12/22(木) : 防災委員会開催

9/22(木) : 葛飾通勤寮・奏かつしか・Craft 合同防災訓練

2/16(木) : 防災委員会開催

2/17(金) : Craft 避難訓練

3/17(金) : Craft 避難訓練

3/30(木) : 防災委員会開催

建物保守に関して

洗濯機の排水が、作業室の地下収納庫に水がたまってしまい水抜き工事を行った。

利用者が、体育館の階段の手すりの間から転倒してしまい、手すり補強工事を行うことになった。(令和6年度4月完成)

1 2. 職員研修

・BCP 内部研修	9月7日	全職員向け
・権利擁護、虐待防止研修	2月15日	全職員向け
・食品衛生実務講習会	6月9日・9月12日	吹田
・傾聴研修（基礎編）	9月6日	高野
・令和5年度東京労働局主催 就労支援セミナー（オンライン）	2月28日	高野
・令和5年度障害福祉サービス等事業者に対する経営管理研修 労務管理	10月25日	中島
・令和5年度障害福祉サービス等人材育成・定着セミナー（動画配信）	11月1日～30日	中島
・マーケティング研修（オンライン）	8月23日～25日	中島
	9月20日～22日	中島
	1月31日～2月2日	中島

1 3. その他の計画

- ・権利擁護、虐待防止研修
- 葛飾通勤寮・奏かつしか・クラフト合同研修 2月15日
- ・苦情処理対応
ボランティア1名より利用者について苦情があった。
謝罪し、ご理解いただいた。

令和5年度

事業報告

社会福祉法人 原町成年寮

多機能型事業所：（生活介護事業・就労継続支援B型事業）

シャイン

I 運営

利用者と職員の健康を守りながら、運営と活動に臨機応変な対応が求められる一年だった。法人内の通所事業所や居宅事業所また他法人の事業所とも連携し事業の継続に努めた。引き続き訪問看護事業所と連携し利用者の健康維持を図った。キッチンKISSの廃止に伴い売上げは下降したが、諸経費等を削減でき損益は微量にとどまった。

年度途中につむぎがアンジュに拠点を移し、それに伴い従たる事業所としては廃止となっている。

(奥戸福祉館と送迎体制の連携・パン配達の協力・利用者職員の交換実習等)

(GHなぎさ・みさき等との日中支援の連携協力)

【利用者組織体制】 (2024.03.31)

就労継続B型事業所 定員 10名 利用者現員 10名 (男性: 5名・女性5名)

生活介護事業所 定員 30名 利用者現員 23名 (男性: 17名・女性6名)

(全体: 定員 40名 現員 33名)

【会議・研修】

職員会議: 月1回: 全職員・ケース会議: 随時

虐待防止委員会: 年1回

各研修: 内部・外部 (虐待防止身体拘束・感染予防等)

(奥戸福祉館合同会議)

美味しんぼ会議: 月1回・作業会議: 月1回・合同リーダー会議: 月1回

【就労支援事業会計】

売上 (38,735,998) 円

【食品】

給食 (37,183,780) ・ お惣菜 (56,975) ・ お弁当 (209,540) ・ 夕食 (224,000)

【つむぎ】

公園清掃 (208,794) ・ 駐車場清掃 (138,558) ・ 野菜販売 (38,636)

受託作業 (133,585)

【雑貨累計】

KURUMIRU(4~3月) (147,700) , その他 (219,100)

【雑収入】

定期便 (120,000) ・ 自販機手数料 (55,330)

☆利用者工賃平均工賃

令和5年度 (178,268) 円/年 (14,856) 円/月

II 生活介護事業所

☆利用者工賃平均工賃

令和5年度 (160,086) 円/年 (13,341) 円/月

【作業活動】

所内清掃と所内消毒、給食作業に使用する白衣等の洗濯・乾燥・保管を行い、食品に携わる施設として衛生を保てるよう努めた。その他、給食・洗浄作業や地域清掃、社内便封筒の作成、など個々の能力に合わせた作業を提供している。自主生産品では、パン・レジニアクセサリーの製作を行っている。健康面に配慮し、ラジオ体操（第1から第3）と骨盤底筋を鍛える体操を実施した。また利用者の高齢化に伴い認知症予防の体操を実施した。PT（理学療法士）を招き機能訓練を実施した。

【従たる事業所 つむぎ】

大きな環境の変化もなく、通常の活動を続ける事が出来た。10月よりアンジュへの拠点移行に伴い、9月末で従たる事業所『つむぎ』は廃止となった。

◆作業面

①園芸作業（自主生産）

外部販売（マルエイ西葛西店 風のマーケット）では例年通りシシトウやハーブ類の売上げが好調だった。

②清掃作業

公園清掃（区委託事業）→週2回、定期的に清掃をおこなっている。

駐車場清掃（外部受注）→コインパーキング清掃。

地域清掃（地域貢献）→作業の状況に合わせ、近隣の地域を中心にゴミ拾いをした。

③外部受託作業

ハトメ作業（外部受注）

⑤ウォーキング

利用者の体調に配慮しながら週3回は必ずウォーキングを行った。

Ⅲ 就労継続支援B型事業

☆利用者工賃平均工賃

令和5年度（ 181,962 ）円/年 （ 15,164 ）円/月

【作業活動】

配食を主な活動としHACCPを守りながら、一般就労を意識できるよう支援を行った。同法人内の事業所葛飾区内の他法人事業所の自主生産品(パン・精米)を配食に使用した。また、他事業所からの配食も受注している。

【食事提供】

①調理作業

技術向上を目指し、各利用者に合わせて作業提供をした。HACCPに基づき食品の取り扱いや大型機器の取り扱いなど、衛生的且つ安全に行えるよう努めた。

②配膳作業

- ・近年、感染予防を考慮し弁当容器や備品を使用していたが、年度途中より従来の食器弁当箱へ変更している。安全な食事提供に努めた。
- ・喫食者個々のニーズに合わせ食事形態(刻み食、減塩食、代替食等)の対応を行った。
- ・衛生への意識を高め、食べる人を意識した盛り付けへの配慮を心がけた。

③洗淨

- ・各々役割に対する責任や作業効率を上げられるよう支援を行った。必要に応じて備品の補修、修理を行っている。
- ・洗淨機の点検を外部業者に依頼して半年に1回行った。

④配達・回収

- ・昼食、夕食共にゆとりを持った時間配分で安全運転での配達を実施している。
- ・昼食配達時に気持ちのいい挨拶が出来るように努めた。

⑤衛生

- ・HACCPに基づき諸々の衛生管理を実施した。
- ・細菌検査を月1回行った。
- ・調理従事者は、入室時、健康チェック及び身だしなみチェックを毎日行った。
- ・調理、配膳室には、2回の手洗いとトリミングを行ってから入室し、手洗いには専用の液体石鹸、爪ブラシ、ペーパータオル、アルコールを使用した。
- ・インフルエンザ、ノロウイルス、コロナウイルス感染予防として、調理従事者への健康チェックの強化、館内の消毒を毎日行った。
- ・厨房等の害虫駆除を外部業者に委託して実施した。飛来昆虫捕虫テープの交換を行った。
- ・グリストラップ清掃を外部業者にも依頼して実施した。
- ・保健所の立ち入り検査があったが、特に大きな指摘事項は無かった。
- ・検食及び保存食を行った。

⑥栄養指導

- ・食事療法が必要な利用者には、その都度アドバイスをを行った。

⑦異物混入及び事故対策

- ・毎日作業終了時に報告し合い事故対策や防止に努めた。

⑧献立発注

- ・栄養価のバランスや行事食等の楽しみを考慮し献立を作成した。

【就労】

- ・一般就労を希望する利用者と就労に向けた取り組みを行い、就労移行事業所への移行につなげた。
- ・アフターケア

Kさん 電話での相談

【食品売上】

給食配食（昼食：180～210食・お惣菜・お弁当・夕食）

食品売上（ 37,674,295 ）円

材料費（ 17,472,890 ）円

粗利益（ 20,201,405 ）円

(R4) 食品売上 (pq) = 37,674 円

粗利益 (mq) = 20,201 円 (粗利益率 53.6%) (mq%)

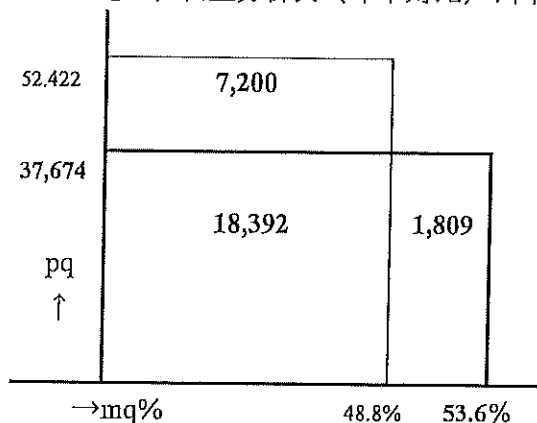
(R3) 食品売上 (pq) = 52,422 円

粗利益 (mq) = 25,592 円 (粗利益率 48.8%) (mq%)

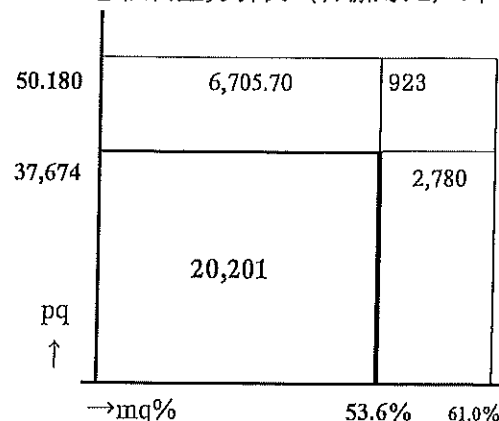
(売上目標) 食品売上 (pq) = 50,000 円

粗利益 (mq) = 19,570 円 (粗利益率 61.0%) (mq%)

① 粗利益分析表 (昨年対比) :千円



②粗利益分析表 (目標対比) :千円



★①昨年対比より、売上が下がり 7,200 千円利益が減った。利益率が上がった為に 1,809 千円利益が増えた。

②目標対比より、売上が下がり利益率も低かった為に利益が減ってしまった。

※グループホーム向けの朝夕配食を行わなくなった為、15,000 千円の売上げが減った。新型コロナウイルス感染予防の為、使い捨て弁当容器を使用する期間が長引き材料費の増加状態が続いている。また、世界情勢の影響で食材費の高騰も要因として考えられる。

【食品販売】

① 惣菜販売

引き続き対面での惣菜販売は中止している。

② 弁当販売

他法人通所施設から注文を受けている。イベント販売は参加を見送っている。

【雑貨】

① 折り紙レジンアクセサリ、プラバンアクセサリの作成を行った。

② 今年度もレジンアクセサリをKURUMIRUから受注し、各店舗（東京都庁B1F・錦糸町店2F・伊勢丹立川店4F）にて販売している。

③ 今年度も引き続き「ゆず屋」にて折り紙レジンアクセサリ、プラバンアクセサリを販売している。

引き続き Association MUKUを通してフランスでも販売されている。

【販売会・受注販売】

3/2(土)パルフェスタで販売会に参加した。

IV 利用者ケース

利用者ケース

・Mさん(女性)

一般就労を希望し、ここ数年就労に向けて取り組みを行っていた。数回の実習を経て2023年7月1日より就労移行事業所『フォレスト』への異動となった。そのため、同年6月末をもってシャインを退所している。

・Kさん(男性)

8月後半頃より腰痛等の痛みの訴えがあり、通院したところ右大腿骨の骨折が発覚。平成石病院へ入院し9/22に手術を行っている。リハビリ後10/10に退院し翌11より送迎を利用し通所再開。その後日常の歩行に杖を使用している。回復の経過を見て医師の診断のもと3/27に送迎を終了。翌28より自力通所を再開している。

・Sさん(男性)

一般就労を退職し、9月よりシャインの就労継続B型事業に入所。糖尿病と筋ジストロフィーの持病あり。1/15にコロナウイルス陽性のためNTT東日本関東病院へ入院。人工呼吸器を使い、食事の経口摂取ができなくなるなど重症化している。回復の見込みは当面立っていない。3/31現在も引き続き入院している。

・Tさん(男性)

10月の休日に単独で秋葉原へ外出、出先で痙攣、転倒し救急搬送されている。今回右側の痙攣があり、左脳の脳梗塞の手術痕があることからおそらく疲れなどで痙攣を起こしたのではないかとこのことで、症候性てんかんと診断を受けている。入院中にリハビリを実施。退院後はそれまでと同じ生活で問題ないとのこと。その後も変わりなく過ごしている。

・Hさん(女性)

2023年10月末頃より体調不良を訴え休むことが増加。その後、GH職員の担当交代やシャイン職員の退職等を理由に通所が安定せず。2/7にGHとケース会議を実施。その後も週2~4日の休みが続いており、来年度にも相談支援事業所も含めたケース会議を実施予定。

V 学習支援

希望する利用者に向け、読み書きや計算、塗り絵、英語等の学習プリントを提供した。成果を実感できるように、個人の専用ファイルを使用した。コロナ禍により活動が制限される中、学習と余暇につながった。利用者より、調理師の資格取得に向けて勉強したいとの話があった。施設既存のテキストを用いて学習を行った。

VI 行事

依然として、情勢を考慮しふれあいマルシェ等行事が実施できないものもあったが可能な限りの行事を実施している。9/8には雨天のためシャイン屋内となったものの全体余暇外出としてBBQを行った。12/22には忘年会も実施した。例年どおりの少人数での余暇外出、ハロウィンやクリスマス、豆まきやバレンタイン等の年中行事も感染防止対策を講じ行った。古希や還暦などのお祝い行事を来年度4月に実施予定。今年度も引き続きバースデーカードのプレゼントで誕生日のお祝いを行った。お花見は桜の開花状況に伴い来年度4月に実施となる模様。

VII 保健

【定期健康診断】

利用者・職員共に年1回実施した。

【健康管理】

- ・昼食前後の服薬はチェックシート、服薬ボックスを用いて確認を行った。
- ・臨時薬（服薬・点眼・塗布薬）は適宜確認を行っている。
- ・毎月、血圧体重測定を実施。必要時は家庭やGH職員、看護師と情報を共有している。
- ・血圧が高い傾向にある又は高血圧の方は、毎朝通所所に血圧測定を実施した。
- ・家庭やGHと連絡を密にとり、健康管理に努めた。

【新型コロナウイルス】

新型コロナウイルスを始めとし季節性インフルエンザやノロウイルス等の感染予防に施設全体で取り組んだ。抗原検査を実施した。感染者や濃厚接触者が発生した際は、保健所の支持に従い速やかに消毒、PCR検査を実施している。

【その他】

毎月細菌検査を行った。結果は全て陰性であった。

【PT】

PT（理学療法士）を招き、必要な方が受診している。年度当初に受診、半年後に見直し年度末に総括を行っている。受診後、ここに機能訓練プログラムを組み、週三回程度継続して行った。猫背等骨格のゆがみ、腰痛など身体の痛みやこわばりが軽減する等効果があらわれている。

【訪問看護】

就労継続支援B型利用者を対象に(株)デカルトケアーズによる訪問看護を実施している。健康相談や状態把握、必要に応じて受診の推奨等があった。利用者の健康に関する安心感にもつながっている様子。年度途中でデカルトケアーズ側の事情により中止となったが、来年度には別事業者で再開予定。

VIII 防災

【自衛消防訓練(火災、地震、水害、不審者対応)】

火災、地震を想定し第一時避難訓練場所へ避難する訓練を行った。(コロナウイルス感染予防の為、密にならないように行った。) 水害への対策として、シャイン建物4階へ階段を使用する垂直避難訓練を行った。また不審者の侵入を想定し、不審者に対応した訓練を行った従たる事業所つむぎ・キッチンキスでも一部同様な訓練を実施している。

IX 地域交流・地域支援

- ・法人内グループホームへ、日中支援や夜勤業務などの乗り入れを行った。
- ・地域清掃…利用者の作業として行った。
- ・町会…地域や町会の行事は、感染対策の実施や縮小した形で行われ、参加し交流を深めている(奥戸天祖神社例大祭・餅つき・大しめ縄・年末年始の初詣準備・森市地蔵供養)

X ボランティア

ボランティア

新型コロナウイルス感染予防の為受け入れはしていない。

XI 職員研修

6/9 (金) 食品衛生実務講習会 岩城

6/17 (土) 18 (日) 24 (土) ガイドヘルパー養成研修 小久保 土信田

8/18 (金) 19 (土) 20 (日) 社会福祉士受験資格スクーリング① 長谷川

8/22 (金) 障害者虐待防止・権利擁護研修 川島

8/31 (木) 進路指導教育研修会 中島

8/1 (火) 「障害理解を踏まえた心理的ケア」研修会 岩城

フォレスト学習会 (月 1 回開催) 松本 中島 川島 岩城

XII その他

【第三者評価実施】

指摘事項

- ・BCPにおける避難所（広域避難所：奥戸スポーツセンター）への避難訓練未実施
広域避難所場までは距離がある為、要検討事項
- ・ヒヤリハット記録が少ない。
夕方ミーティングにて報告する。

2023年度

生活介護事業所シャングリラ

事業報告

1. 運営の概況

事業所の利用定員を4月から60名に変更しスタートした。アンジュから29名が移動し、もともと一緒に活動してきた仲間がまた一つになった。利用者支援では、基本的には作業活動を中心とした支援を行い、運動や体操も取り入れ日中活動の充実を図った。これまで縮小、延期等していた余暇、行事の活動も計画に沿って予定どおり行った。

利用者も増え事業所全体に活気が戻ったが、高齢化率も上がり介助する利用者も増えたことで職員体制上現場はかなり厳しい状況だった。安全安心な支援の提供と職員業務の効率化を図るためにコミュニケーションを活発に行い、改善策を検討した。1月には、常勤職員1名を雇用した。

新型コロナウイルス感染症も発生から3年余りがたち、5月からは感染症法上の位置付けが5類に移行したが、マスクの着用、換気、消毒など感染対策も日常的なものとして定着してきた。感染対策は継続し気を緩めず関係する他事業所と連携・協力して運営の安定に取り組んだ。

2. 利用者状況

○在籍状況 男性 36名 女性 23名 合計 59名 (定員 60名)

○平均年齢 男性 64.2歳 女性 60.6歳 全体 62.8歳

○年齢別 (3月末)

	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	3	3	6	9	9	6	36
女性	2	3	3	9	6	0	23
合計	5	6	9	18	15	6	59

○支援区分別 (3月末)

	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	3	4	15	6	8	36
女性	3	2	8	5	5	23
合計	6	6	22	12	13	59

○利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	20	20	22	20	19	20	21	20	19	18	18	20	237
利用者数	60	60	60	60	60	60	60	59	58	58	59	59	713
平均通所者数	56	56	56	54	54	54	53	53	52	50	53	52	643
新規利用	29										1		30
利用解除							1	1					2
出席率	93.8	92.8	93	89.7	89.5	89.3	89.1	87.8	86.9	83.1	87.9	87.1	89.2

○新規利用 4月/29名（アンジュより移動） 2月/1名（GH）

○退所者 10月/1名（死亡） 11月/1名（長期入院）

○職員体制

管理者1名（兼） サービス管理責任者1名 生活支援員17名（兼務含）

看護職員1名 運転員1名 調理員1名 事務職員1名

理学療法士（嘱託）1名3回/月 医師（嘱託）1名1回/月

3. 利用者支援

○軽作業

売上目標金額を1,500,000円に設定し取り組んだ1年であったが、実績は1,199,062円、目標対比79.9%であった。目標金額未達の要因として、(株)オビツ製作所の売上が上がらなかったこと、(株)東栄社に関しては7～11月にかけて受注量が減ったことも目標未達に繋がった。東栄社担当者と信頼関係を構築し、教材の受注を頂けるよう努めた。

来年度は年間を通し安定した作業提供ができるように、新規業者の開拓を行うこととした。

・作業収入1,199,062円

○創作活動

手芸や塗り絵、ロールピクチャー等で作品作りを行った。出来た作品のいくつかは区の障害者作品展に出品した。また、創作で培った技術や創造力は自主生産品作りに活かしてクリスマス飾りや正月飾りを作り、奥戸福祉館が運営するゆず屋や12月の区役所販売会で販売した。

・販売収入57,900円

○入浴

健康状態の確認と体温、血圧に基準を設け、普通に入浴、シャワー浴、部分浴、清拭等、一人ひとりにあった適切な入浴方法で疲労回復やリフレッシュに繋げることを心掛けた。15名の希望者が週1回～5回入浴し、一日平均9名～10名が入浴している。機能の低下により着脱や洗体等、入浴時間が掛かるようになり一人平均50分程と少しずつ延びてきている。

○機能訓練

月3回理学療法士が来所し、身体の状態を診てもらい、利用者14名がストレッチや歩行訓練等に取り組み、身体機能の維持に努めた。日々の訓練は理学療法士が作成した訓練メニューを基に職員がストレッチ等を継続し行った。

また、全体での嚥下体操は感染予防のため自粛したが、嚥下に不安のある利用者に対しては個別に訓練を実施した。

○余暇

月2回の余暇活動の日を設け、手芸や塗り絵、ロールピクチャー等の他、散歩やカラ

オケ、ゲーム等、利用者それぞれが好きな活動に参加した。またドライブやクッキング等を楽しんだ。

・クッキング

7/21 (2階利用者)、7/26 (1階利用者)、2/7 (2階利用者)、3/5 (1階利用者)

○行事

・ボウリング大会

5/30、6/6、6/12、7/4、7/12、10/6、11/8、11/24、12/20 9班に分けて実施。

・昼食外出

6/26、6/29、7/19、7/31、10/18、10/31、11/1、11/15、11/27、11/28、12/11
11班に分けて実施。

・ぶどう狩り (昼食外出)

8/7、8/10、8/23、8/29、8/31 5班に分けて実施。

・納涼祭・すいか割り 8/24

・長寿を祝う会 9/8

・お楽しみ会 12/22

・節分豆まき 2/2

4. 健康管理

健康面では日頃から利用者の健康状態を把握し定期的な健康観察のほか、年1回の定期健康診断を行った。必要に応じてグループホームへ助言し連携を図った。

○体重・血圧測定 毎月

○細菌検査 毎月

○定期健康診断 10/4

利用者の感染状況については1、2月にグループホームでコロナやインフルエンザの罹患者が発生し、通所している利用者が入替り休みとなった。職員については3月3名がコロナに感染した。5類に移行したことで感染者以外の症状がない利用者は受け入れを行い、他利用者とは離れ活動していただき3~5日は体温測定、健康状態の観察を徹底した。事業所内で感染拡大することはなかった。感染対策では東京都集中的検査(抗原検査)を週2回、3月末まで実施した。

5. 防災

利用者の安全を最優先とし、火災・地震等の不測の事態を想定し避難訓練の実施と、防災ビデオを視聴した。職員全員が避難方法、避難場所の確認など共通認識をもち行った。また、非常災害対策計画に基づき水害を想定した訓練を行い、車での移動、事務所3階までの垂直移動の訓練を実施した。

・ 6月28日 消火・通報・避難訓練(地震想定)

- ・ 9月28日 非常災害対策計画に基づく訓練（水害想定）
- ・ 10月26日 消火・通報・避難訓練（火災想定）
- ・ 1月23日 消火・通報・避難訓練（地震想定）ビデオ視聴
- ・ 3月28日 消火・通報・避難訓練（火災想定）ビデオ視

6. 苦情受付・虐待防止

相談や意見が4件あったため、委員会を開催し状況把握や対応策を話し合い、利用者本人に説明を行った。また、利用者一人ひとりの意見や声を吸い上げるため、個々に聞き取りを行った。

虐待防止については、委員会で検討し独自のチェック表（虐待の芽チェックリスト）を作成した。虐待防止、身体拘束等の適正化のための指針についても利用者が閲覧できるように所定の場所に設置した。

7. リスクマネジメント

ヒヤリハット3件、事故報告6件があった。送迎車内でのシートベルトの確認がされておらず装着できていなかった。また歩行や方向転換、移乗をする際、バランスを崩す事での転倒や食前薬の提供忘れ、薬が床に落ちている事があった。

発生状況の確認や事故防止策の検討を行い、職員間で共有することで支援に活かせるよう努めた。

車両運行については、安全確認を徹底するよう周知し、運行前後にアルコール検知器でのチェックを実施した。

8. 地域交流

余暇活動を通して事業所外の人との交流を深めつつ、買い物や食事の仕方について体験をしながら学んでもらった。

福祉を学ぶ学生の実習依頼があり受け入れした。

- ・ 東京家政大学1名 2/7・8

9. 職員研修

○内部研修

- ・ 虐待防止法の理解と対応 7/19
- ・ リスク管理について 10/18
- ・ 虐待防止・権利擁護研修（伝達研修）11/22

○外部研修

- ・ 東京都障害者虐待防止・権利擁護研修 春日 7/27・9/4
- ・ 東京都サービス管理責任者（基礎研修） 山口 8/1・2・3・24・25

- ・東社協知的発達障害部会 虐待防止・権利擁護研修 李 8/24
- ・東京都強度行動障害支援者養成研修（基礎研修） 岩澤 10/17・19 11/1
- ・安全運転管理者講習 崎代 10/31
- ・東京都強度行動障害支援者養成研修（実践研修） 西岡 11/29 12/13・19
- ・日中活動支援部会全国大会 岩澤・山口 12/7～8
- ・東社協知的発達障害部会 虐待防止・権利擁護研修 安藤 12/14
- ・東京都サービス管理責任者（実践研修） 大場 1/9 2/8・9
- ・業務継続計画（BCP）の検証訓練を実施する方法を学ぶ研修会 春日 1/17
- ・東京都強度行動障害支援者養成研修（実践研修） 山口 1/24 2/8・13

10.各委員会

- ・苦情解決委員会
利用者への聞き取り、利用者の声の報告、検討等、年2回開催 7/5・10/26
- ・虐待・拘束委員会
研修について、虐待の芽チェックリストの作成等、年2回開催 6/13・12/6
- ・感染対策委員会
感染予防対策について、感染症発生防止のための指針の周知等、年2回開催 6/8・12/11

11. 第三者評価

- 株式会社ハイマート総研により第三者評価を受審した。
全体の評価講評は別紙参照。

No.		特に良いと思う点	
1	タイトル	作業や創作活動を選択して一人ひとりの得意を活かせるようにしている	
	内容	利用者の意思を尊重し、利用者一人ひとりが安心して充実した時間を過せるように考えサービスを提供している。創作活動や作業については口頭の説明のほか、側について実際にやって見せながら手順を分かりやすく示し、分かるまで繰り返し伝えるなど対応している。自分に合う作業や活動を本人が選択できるように整え提供するなど、利用者個人が得意とする作業ができるような配慮をして社会とのつながりが持てるようにしている。	
2	タイトル	利用者に関する情報を共有して日々の支援に活かしている	
	内容	支援に必要な情報を適切に管理してサービスの向上と日々の支援に活かしている。法人共通の業務管理システムを導入し、それを活用することにより必要な情報を誰でも一定のルールに則った書類を作成することができ、また、共有できる。利用者支援にとっても収集した情報を有効に活用できるなど、業務の効率化にもつながっている。個別のファイルにまとめているので活用と共に管理や保管もしやすく、誰が見ても必要な情報がすぐに取り出せるようになっている。	
3	タイトル	職員間の風通しが良く個々の意見を積極的に発言できるようになっている	
	内容	職員間でコミュニケーションを取り合い、支援に反映することが出来ている。誰でもが意見を言いやすい、話しやすい職場環境の実践に取り組んできた。風通しの良い職場なのでいつでも経験者や同僚に相談することができる。また、職員それぞれの特技や性格を活かしたボトムアップ型の支援提案や運営が実践できている。各々の職員が安心して業務に取り組む職場環境があり、自分事として考える場面が増え職員は自分のできることから貢献できることについて考え意欲的に役割を果たそうとしている。	
No.		さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	利用者に必要な支援を行い、身体機能の維持や向上につながるようにしていく	
	内容	今年度から利用者の定員が増えたこと、利用者の半数以上が高齢者となり事業所に求められる支援も変化している。特に、食事介助場面での摂食嚥下のケアの必要性を感じている。現在は嘱託で理学療法士が利用者の身体能力や日常生活能力の維持向上に取り組んでいるが、言語聴覚士など外部の専門職の協力を求めながら、通所施設としてできる範囲で今の機能を維持継続できるようにすることを課題としている。	
2	タイトル	利用者個人の意思を尊重しながら職員は適切な対応と支援に努める	
	内容	創作活動や作業は、利用者本人が選択して取り組むことで満足感や充実感を得ることを目指しているが、高齢者も多いことから本人の気持ちや意欲はあっても、体調や内容を鑑みた時に少し難しいと判断できる場合には、本人の気持ちに十分寄り添いながら、状況を踏まえた丁寧な対応ができるように配慮するなど職員は、利用者の意向を尊重しつつ、個別の状況に応じて健康面と活動面のバランスを考慮した支援を行なっていくことを課題としている。	
3	タイトル	業務の効率化や標準化を進めながら個々の能力のスキルアップに取り組んで行く	
	内容	業務の中で職員を固定していないため、どこを受け持っても常に同じレベルで支援できるように職員間で情報の共有を行いサービスを提供するようにしている。そのため、他の部署との連絡のとり方や連携を改めて考え、事業所全体で情報の共有がしっかりとできるようにさらに工夫したい。業務を進める中で気付いた事を出し合い、手順の整理にも取り組み、業務効率化と共に学びや理解を深め、職員それぞれのスキルが向上できるように取り組むことを課題としている。	

